明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年十二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正三年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百一號

婦人衛生雜誌

第三百一號目次

私立大日本婦人衛生會

新年會通知

來大正四年一月二十二日（第四土曜日）をトし午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て新年初例會相開候間會員諸姉の奮て御出席あらむことを冀望致候也

大正三年十二月

私立大日本婦人衛生會

（前附の一）

●會　告●

●前金切れの方は此際何卒至急御送金下され候やう御願申上げ候

振替貯金口座東京一〇六〇〇番

●本月の本誌には各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置申候

大正三年十二月

大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百一號
（大正三年十二月二十日發行）



親の飮酒と子供の變質

醫學博士　片山國嘉

私共は今日總裁宮殿下の御前に於きまして一場の講演を致しますことは眞に光榮と存じます。

先程莊司君からお話の通り今日の御話はお饅頭に譬へれば餡の方は高島さんで私は皮の方でありますが、唯今の御話は全部大層美味しくなされて下さいましたので、諸君もお話を御聽きになり大層美味くお感じになつたことゝ存じます、で私のには皮の方を下さいましたが、皮の方は御辭退致して、少し他の方面に立入つて辛いところのお酒のお話を致します。酒のことをお話致すと却々深山ありまして、到底二時間や三時間で酒のお話を全部致す事は出來ないのであります。其酒の話の中の一部分を今日はお話申上げる考であります、でどう云ふお話を致すかと申しますると、演題に掲げて置きました通り先祖が酒を飮み親が酒を飮んだ其影響で子供に色々の變化が起る、變質、卽ち性質の變化と云ふことで、親が酒を飮む爲に子供の性質、身體に惡い變化が起るのでありますが、どんな惡い變化が起るかと云ふことを今日お話申上げる積りであります。

飮酒の害毒は本人並に子孫及び國民に及ぶ

先づ親が酒を飮む、酒を飮んだ爲に影響を受くるのは勿論飮んだ人自身が一番受ける利害を感ずるのでありますが、其酒を飮んだ爲めに隨分色々の害のあると云ふことは私が申迄もなく皆樣の御承知のことであります。醉ふと人と喧嘩をするとか或は罪を

犯し、遂には學問の方針を過るとか云ふやうなことが澤山あります、青年であれば酒を屡々飲む爲めに學問を怠り、方針を過つて一生其爲めに不幸に陷ると云ふことは酒の害である。又色々な病氣を惹起すと云ふやうなことがありますが、是は要するに飲んだ人自ら招くところの害でありまするから自暴自棄……自ら招く禍とすれば人を怨むにも及ばず、まあそれを避けたら宜いやうでありまするけれども、決して其酒の害が飲む本人にのみ止つて居らぬので、本人は自暴自棄、酒の好きな人は酒が飲めなかつたら死んだ方が宜い、生き甲斐がないとまで言ふ位である　さう云ふ人は命の短くなるのも自分の覺悟の前ですから構はないやうなものですが、それが其本人のみに止らずして若い罪もない子供に害が及ぶと云ふ段に至つては、是は自暴自棄と言ふ範圍に止らない、子供に害を及ぼし、それが烈しくなると一種の病氣になると云ふやうな害が此飲酒の爲に起るのである。是は實際さうなければならぬことで、親は酒を飲む、何の爲めに飲むか、悅び遊ぶ爲に飲む、どうも酒を飲まなくちや夕食が出來ぬとか、兎に角一時の味を樂み一時に醉ふ、心地が愉快になると云ふ爲めに酒を飲む、其一時の愉快を求むるが爲めに酒を飲んで其子孫が不具になる、子孫が病人になると云ふやうなことを酒を飲む時に考へて飲む人は餘り無いやうであります。其事を承知したならば、どう云ふ考を以て飲むべきであるか、斯の如く子孫までその惡影響を被むるのでありますから、之を大きくして言へば一國の國民の健康と云ふことに大影響があるのであります。段々日本の國が強國の中に入つて……日清戰爭、日露戰爭、又日獨戰爭が起ると云ふやうになつて、段々世界の強國に入つて外國と戰をしなければならず、學問の競爭も亦外國としなければならぬのでありますから、男女を問はず國民としては成るべく身體が壯健で精神が能く發達し、出來得るだけ能く皆さんが協同一致して働かなければ日本の將來と云ふものは甚だ心配である、各

國の間の競爭に負けないやうにしなければならぬ、其負けないやうにするには國民の精神と身體とが丈夫でなくてはならぬ。

未來の國民と酒毒

先程高島君の仰せられた通り身體は獸の如く雨風に逢つても却々腹も壞さぬ、風も引かぬと云ふやうな身體にならなくてはならぬ、又一方には精神が發達して佛の如く立派な精神でなくちやならぬ、智慧を十分に磨いて世界の中で最も智識ある人とならなくてはならぬ。さう云ふことが能く行けば日本の將來は世界各國と競爭して負けないで濟み、是ならば自ら安全と云ふことが言へるのでありまするが、今日の國民の如く酒に負さるゝやうでは未來の國民は此永遠の勝利と云ふことは覺束ない、頗る吾々は心配に耐へないのでありまする、さう云ふことから吾々は先づ吾々の知り得たる方面から少しでも未來の國民の害になると云ふやうな事柄を除きたいと腐心して居りますが、それも大變な金を掛けたり大變な難かしいことをしたりするならば容易に出來ぬと云ふこともあるけれども、酒の害などはさう云ふ澤山の金を費さんでも出來るし、利害を能く心得て害が無いやうに飲みさへすれば縱令飲んでも其害は避けられる。第一に必要なのは其飲酒の利害を能く知ることが必要である、唯目前の害――醉ふた時は亂暴になる、喧嘩すると云ふやうなこと、是等は誰でも知つて居りますが、子供に及ぶ害と云ふものは目前には見えない、子孫が出來、それが年頃になつてどうも世間の子供と較べると大變に纖弱だとか低能兒であるとか、又は不良少年であるとか云ふやうなことが判つて來る。どうして斯んな子孫が出來たのであらうかと言ふと、是は卽ち親の飲酒が原因であると云ふので始めて後悔するやうな譯になるのであります。夫故に學問の進まぬ間は何人も親の飲酒が子供に非常に害を及ぼすと云ふことに考が及ばなかつたのであります、所が衞生學の進歩につれて、さう云ふことが段々解つて參りまして、これは成程害の

恐ろしいものであると云ふ其利害關係が益々知れて參りました。

犯罪人の親は殆ど飲酒家である

其事を吾々が深く研究することになつて來まして、特に私の專門として取扱ふのは、其犯罪人等が何う云ふ原因で犯罪したかと云ふやうなことが、常に私のする仕事でありますので、此犯罪をした者などに就いて取調べて見ますと、さう云ふ犯罪人などの親と云ふものは大抵飲酒家で、必ず母親なり又父親なり何れか大飲酒みであつて、飲まない者は殆ど無い位である、甚だしい例を申て見ますと、日本橋通りの葉茶屋の男が自分の姉を殺したと云ふ事件があります、其事情は頗る氣の毒なことで、姉を殺したと云ふことは惡いけれども、大變裁判官も同情された、其姉と云ふ者は「ヒステリー」の酷だしい女で、常に人を困らすやうな惡い女で、親にも頗る不孝な姉である、それに引換へて男の方は親孝行と云ふ評判を取つて居つた位でありました、で一方は親を大切にする、又一方は親を苦しめると云ふのでありました。それで其男も亦始終それを氣にして遂に神經衰弱に罹り、自殺を企てたと云ふやうなこともあつて、或時は鐵道線路に飛込んで自殺しやうとしたり、又或時は身延山に行つたり、又或時は舟に乘つて八丈島の方の海に飛び込まうとしたやうな事もあつたが、其場合になると怖氣が出て反對に望は遂せられなかつたと云ふやうな事があつた。姉が親を非常に慘酷に取扱つて居つたのを大層苦にして、一層姉を殺して仕舞ふた方が宜いと云ふので殺す氣になつて、刃物を買つたりして仕度をして愈々と云ふ段になると、仕度はしたものゝ矢張り姉ですから殺すには忍びなかつた。さう云ふ風に二度程極端に實行はしたけれども遂げない、でとう〳〵三度目に酒を飲んで少し醉ふて姉に無心を言つてやつた所が、口論の末姉は弟の頭を撲つた、そんなことをしたので其勢で終に其刃物で姉を殺したと云ふやうな事になつたのである。斯云ふ風に一方は親孝行、一方

は親不孝であるので、殺したにも拘らず大變に警察官や裁判官の同情があつた。一體此の男は精神が狂ふてさう云ふことをしたのである、病氣で斯云ふことをしたのであると云ふことになつた。斯樣な事を私は觀察して見ますと、此男の神經衰弱と云ふことも酒の害を被つて居るからである。兎に角犯罪當時には眞個の精神狀態でなかつたと云ふことが明になつて、それで無罪になりましたが、其兩親に就て段々調べて見ますと、其親は非常な酒飲みで、母も飲酒家であつたが、其時は老衰病になつて居た。父親の方は疾うに亡くなつて居りました、其父親の方も大飲酒家であつたと云ふ一つの確な話を聞いて吃驚するやうなことがある、それは安政二年の大地震があつた時に、地震の爲に彼方此方に大火事が起つて死傷があると云ふ位で、此安政の大地震は誰も知らぬ者は殆どなかつた位である、ところが其親は酒を飲んで醉潰れて大騒ぎをして居つたので、とうとう其地震の事を一寸も知らなかつたと云ふやうな評判男であつたさうです。これは私の關係した犯罪人の親が大酒飲であつたと云ふ著しき例であります。

もう一つそんな例を申して見ると、先年赤坂で孫殺し――孫が可愛うて堪らぬから殺したと云ふのがある。それなどは酒を大變好きである。其祖先を調べて見ると、それは德川家の盛んであつた時に、殿中で七人斬りをした人の子孫である、小說の中に松平某と云ふ人で、其小說の題になつたところの七人斬の子孫である、で斯んなやうな工合で隨分小說の種になつたり、話の種になつたりするやうな、さう云ふ者を調べて見ると大抵皆酒飲みである。さう云ふ者の子孫に犯罪人の多いと云ふのも、詰りさう云ふ人間の飲酒の結果で、其飲んだ人ばかりでなく子孫が影響を受けると云ふ風で、飲んだ當人ばかりでなく間接に子孫にまで及ぶ害が實に著しいのである。是は單に犯罪者が出來ると云ふばかりでなく世の中には色々な不良少年とか低能兒とか、是等は犯罪人

ではないけれども世の中の厄介者である。又幾ら勉強しやうとしても出來ないやうな氣の弱な人間が澤山ある、さう云ふのは大抵大飲酒の子供に出來るのである。それを避けやうとするには、現在の人がさう云ふ他に害の及ぶやうな悪るい酒の飲方をしてはならぬ、然らばどう云ふ飲み方をしたら宜いかと云ふことを少し詳しくお解りになるやうにお話致さうと思ふのでありますが、それには種々學者の調べもあり、統計表も澤山ありますけれども、唯澤山の數字を集めたと云ふだけで、集める統計の材料が、確實なものでないと、此統計表は疑はしい譯である。で親の飲酒か子供に影響のあると云ふ事はお解りになつて居るが、それがどんな工合で、どう云ふ風に現はれて來るかと云ふことを最も確な材料に據つて調べると「圖を指す」此表は最も確實な最近の調査であります。どう云ふ具合にして統計表を作つたかと申しますと、先づ酒を餘計飲む者と飲まない者との二種を家族各十家族宛選んだので、西洋では御承知の通り全く酒を飲まぬ家族は甚だ得難い、此表も禁酒家とか全く飲まぬ者は勘定の中に入つて居らぬので、大酒家と少しづゝ飲んだ者と其二種に就いて調べたのであります、それを各々十家族調べたので、其調べる人は最も能く家族の狀態も知つて居り、能く關係の分る者を各々十宛選んだので、一方は攝酒家の方の子供の數が六十一、一方は大酒家の子供の數が五十七、此六十一と五十七の子供の中で健康な者が何の位、不健康なものが何の位、死亡した者が何の位と云ふことを百分比例に依つて表はしたのであります。「表を指す」

大酒家の子供と攝酒家の子供

此方が身體の健康な者、此次ぎの欄が病氣及不健康な者、其次ぎの筋は一ケ月間に死亡した數で、斯云ふ三通りに分けて、其中で大酒家と攝酒家と何方が多いかと云ふ關係を數字を以て示したのでありますが、此表中黒い線が大酒家で、赤いのが攝酒家の方であります、で先づ此精神身體等の健康な子供は何

方に多いかと云ふと、此の赤い方の線は百の中八十二で、即ち百に對する八十二は精神身體共に健康な子供で、黑い方の大酒家の方は纔に十七、五ほかない、之を比較して見ても大酒家の子供に健康者が少なくて攝酒家の子供に健康な者が多いと云ふことが明かに數字に表はれて居る。次に此病氣なり不健康な者を小別して色々申上げますが、兎に角何方の子供が健康であつて何方の子供が夭死をするかと云ふに、即ち大酒家の子供に不健康な者が多いやうに、夭死も百人中三十八人の割合で、攝酒家の方には僅かに百人中五・八ほかないから、酒を餘計に飲む方には病氣の者が多く、不健康な者が多いと云ふことが分ります、小兒の死亡――生後一ケ月間に死んだ小兒と云ふ者はどつちが多いかと云ふと大酒家の方に多い、大酒家の方は七十三強、攝酒家の方は八、と云ふ割合で之を百分比例に取つて見ると、子供の夭死及び病氣になる者、不健康なる者は大酒家に多いで大酒家の方には此の精神身體の健康な者が少なく、攝酒家の方は其反對に健康な者が多く、病氣になり死亡する子供も少ない。斯云ふ具合に全く正反對の結果になります。だから酒を餘計飲めば子供に大變惡い影響があると云ふことは十家族の子供の健康狀態を比較して見て能く分かる、是は確な家族を各々十家族、兩方で二十家族の子供について比例を取つたのでありますが、是は決して此家族の子供には限らぬ、總ての酒飲の子供は矢張り此表の如き比例に於て酒を餘計に飲む人の子供は此酒の害を蒙つて居る、けれども攝酒家の子供にはその害ある者が少ない。

酒代三億圓

斯云ふ具合にして、それを日本全國に及ぼして見ますると云ふと、隨分日本全國の人々が飲みます酒の分量は澤山なもので、西洋人に比較すると日本人の酒の飲み方は少くないけれども、之を集めて見るとなか〱の多額にする、先づ金で申して見ると凡そ三億圓、日本全國の酒を飲む人は三億圓の酒代を拂

つて居る譯で、日本人の中には飲まぬ者もあるけれども飲む人は大分澤山な酒を飲む、何萬人飲むか勘定が出來ませぬが、何十萬を以て數へる程酒飲みがあらうと思ふ、兎に角三億圓と云ふ酒を飲んで、さうして其酒を飲んだ人は子供に惡影響を及ぼす、即ち子供は祖先の飲酒の爲めに影響を受けて居る、又今日以後に出來るところの子供は今日酒を飲む人の影響に因つて矢張り是と同樣の害を受けつゝあるに相違ない。さう云ふ具合に考へて見ると、一の飲酒でありますけれども其害は頗る著しいもので、此害が、今日日本國民の健康狀態に如何に影響するかと云ふことは此表を見ても解るので、惡い結果を未來の子供に與へると云ふ事は此黑い線の通りの結果を與へると云ふだけでも大變なものである、實に飲酒の害と云ふものは、飲む本人だけに就て論じたのでは、まだ／＼論じ方が足りない。斯云ふ具合に子孫に及ぼすところの飲酒の害と云ふものは最も怖るべきもので、是は啻に本人だけに止まらず國民全體を惡くすると云ふことになるので、斯の如く不健康となり不具となると云ふやうな結果になるのである。是は生れた子供に就てゞありますけれども、生れない前にも子供が害を被ると云ふことがある、能く流產等になるのは餘計酒を飲む者に多い、母親は丈夫であつても其父親が大酒飲みであれば流產をすることが往々あります。先天的に子供が害を受けて居つて、生れて後死亡するのも澤山あるし、又子供の出來る數も少なくなるのである、であるから此害の著しいことは之に依つて見ても凡そ想像が出來るであらうと思ひます。

酒と變質者

此死亡した者、不健康な者及び不具者を除いて、差當り素人の眼で見たところでは普通の人である、少しも變つたことはないが、而も醫學上から之を檢查して見ると普通ではなく、矢張り何處か缺けて居る即ち體質が惡くなつて――變質して居るのが多いので、其變質――性質の惡くなると云ふことが身體の

上にも現はれる、又精神の上にも現はれる、そこで此變質の重なるものを玆に各々五つ宛擧げて――全部ではありませぬが、重なるものを五つ宛擧げてあります「圖を指す」。先づ變質――體質の變つた者、又精神に影響を受けて居ると云ふやうな者が澤山あるのを見ると、精神の薄弱な者、學校へ行つても普通の子供と同じやうには何うしても其學問が出來ない、同じやうな事を敎へやうとすれば直ちに頭痛がするとか、眩暈がするとか云ふやうなことで、平素は別に何んともなくても試驗前になると耳鳴りがするとか頭痛がするとか云ふやうに非常に惡い影響を及ぼす、今日の言葉で言へば所謂低能兒――精神の薄弱な者は飲酒家の子供に最も多い。其度合が進んでは白痴となる、是は精神の發達が普通人に劣つて居る、その白痴と云ふやうな子供も酒飲みの子供に多い。それから精神病、「ヒステリー」卽ち俗に言ふ血の道と云ふやうな病氣、是は婦人に多うございますが、これも矢張り酒飲みの娘に多い、尤も男にもある、女のみには限らない、男の「ヒステリー」もある。「ヒステリー」癲癇神經衰弱とか云ふやうなものは皆神經病と一と口に申しますが、親の酒飲の爲めに子孫にさう云ふ子供が生れる、卽ち遺傳性を作るのであります。

酒と精神病

それから精神病にしても、是も親が酒を飲んで其中毒で精神病になる、酒を飲んだ本人もなるが、玆に申すのはさうではなく唯病人自身は、矢張り酒を食む者もあるし、又全く飲めない者もある、或は好きではないけれども分量が少なくして直ぐ醉ふやうな者もある、又醉ひ方の良い者と惡い者とがある、少量の酒を飲んで大騷をやつたり、亂暴をしたり、非常に辯舌家になつたりして全然變つて仕舞ふやうな者もあるが、それは親の飲酒が皆遺傳的に現はれて來るので、卽ちさう云ふやうな一つの變質が土臺になつてゐて精神病が起る。それから此變質と云ふのは、其變り方が精神病と云ふ程のことではないが、

妙な癖があつて並の人とは餘程調子が異なつたやうな者が隨分世の中には澤山ある、さう云ふ變つた者は即ち多くは變質者であります。さう云ふ精神病と云ふ程でなくとも精神の多少異つた者、是等の原因は酒飲みなどの子孫に多いので、精神の方面に於ても薄弱であり、身體の方面に於ても虚弱であると云ふのは、酒を飲む本人もさうであるが、別に「アルコール」中毒と云ふ程のことはなくても總じて病氣に罹り易い、體が弱くなつて何病氣にでも罹り易い何處となく弱くなる、弱くなるから自然仕事が十分に出來ない。

飲酒家の子供は結核に罹り易い

それから第二は結核に罹り易い、是は親が酒を飲んだから結核病になると云ふのではありませぬが、結核病は、結核の黴菌が入つて來て始めて結核病になるのでありますが、酒を飲んだ人の子供は結核病に罹り易い、矢張り身體の弱いと云ふことは先程高島君のお話の如く抵抗力が弱いので、如何なる場合でも抵抗力が強くなくてはならぬ、然るに此飲酒家の子供は頗る抵抗力が弱い。色々な病氣に對する抵抗力が弱くなるのであるから酒飲みの人は腸窒扶斯に罹るとか或は赤痢に罹るとかすると平生は大變丈夫のやうに見えて居つても急に死ぬると云ふことがある。兎に角病氣に罹り易い、罹つた以上は重病に陷り易い、隨つて死亡も多いと云ふ風で、それは飲む本人もさうでありますが、子供も矢張り其素質を受けて來て纖弱にして抵抗力が頗る乏しい、抵抗力が乏しいから結核の黴菌が身體の中に入つて來ると忽ちに病に罹る。壯健な子供であれば澤山結核菌が入つて來ても結核菌の方が敗けて仕舞つて身體の中に結核菌が潜むやうなことはない、ところが身體の弱い者であると、身體の中で其結核菌が育つやうになるから結核病になる、斯う云ふ譯で酒飲みの子供が結核病に罹り易い、詰り飲酒の爲めに身體が弱くなつて抵抗力がなくなつて居るから罹り易いのであります。

飲酒家の子供には齲齒が多い

それから齲齒――齒の惡いのは甘い物を食べるからだと言ひますが、それは甘い物を食べる爲めの原因もありませう、又他にも色々ありませうけれども、親が餘程酒を飲んだのが原因で子供が齒が惡くなる即ち齲齒が多い。斯んな事は以前は一向氣の付かぬことでありましたけれども、近頃細かに調べが付きましたので、從つて此の原因が解るやうになつたのであります。其他色々の傳染病は勿論、傳染病でなくとも總ての病氣に罹り易いと云ふ事は、抵抗力と云ふものが乏しいから、どの病氣でも、病氣の方が勝つと云ふことになる。

飲酒家の娘は乳が出ない

それから第五には酒飲みの子供は、女の子に乳の出方が惡い。斯云ふ風に、親が酒を食むと總てに影響して斯云ふことにまで及ぼすのであります。

酒の爲に穀潰しが多くなる

前に申しましたやうに大凡三億圓程の價の酒を日本の國民が飲むのですが、只今は其害の中の重なるもの五種類を擧げたのでありますけれども、斯云う風な害を酒飲みの子孫が被ると云ふことが多ければ、未來の國民と云ふものは縱令頭數が澤山あつても仕事が出來ない、職業に就くことも出來ぬ、唯世の中の食潰し、厄介者であつて、却つて國力を減ずるものであつて國力を增す方の助にはならぬのである。國民が健康であれば國力を增し、不健康であれば却つて國力を減じて大變國家の損耗になるのであります。

娘の授乳能力に及ぼす飲酒の影響

先づ是で變質と云ふことに就ての大體を申しましたが、其中で一番惡い害で、乳の缺乏と云ふことを倘ほ詳しく斯云ふ風な「表を指す」表で擧げてありますが、今日は親の飲酒が娘の授乳能力に影響のあると云ふことを表でお示ししやうと思ひます。是はブンゲと云ふ西班牙の生理學者の調べた方法で、それを色々な醫者が手別をして調べた數で、それを集めて

此表を作つたのである。此調べをしたところの醫者の數は二百五十人程でありますが、その調査したものを集めましたもので、日本でも醫學會の雜誌に載せて日本の醫者に調査を求めましたところが、どうも日本は、斯云ふことを調べる人が乏しいので、一つも纏まつた調べが見えませぬが、此調べは大酒家と節酒家、不規則な大酒家と多少飮む者等四十一人に就て調べて見たのでありますが、先づ母親には乳が出たけれども娘には乳が出ないと云ふことでありまして、親に乳の出たのは赤い線で表はし、娘に乳の出たと云ふのは黑い線で表はしてあります。是は百分比例でありますが、斯云ふ具合にして調べて見ると、大酒家の親には乳が出たけれども娘には乳が出なかつたと云ふことが此線「圖を指す」の通り、乳の出ないのは大變多い、親にも出て娘にも出たと云ふ者は頗る少ない。普通酒を飮まぬ者であると線が全く反對である、斯云ふ具合に親が酒を飮んだ者と飮まない者とは全く乳の出方が反對で、普通酒を飮まない者で母親に乳が出て娘に出ないと云ふのもありますが、それは酒以外の病氣等もあり、他の原因から調べられたのでありまして、兎に角親に乳が出れば其娘にも出ると云ふのが大變多いのに、酒を飮むとそれが反對になる。酒の分量の少ない者は稍々多い、それから少し過ぎた飮み方をするものは段々に少なく、大酒飮みの方は全部斯う云ふ風に曲線が出來る、それだから「表を指す」此方は正しく大酒飮の子供に不利益な影響が多いと云ふことが現はれて居ります。此處は乳に就てのことでありますが、斯う云ふ具合で此娘に子供の出來る迄に飮酒の影響を子供が受けて居ると云ふことが解る、別に病氣でもなく精神に異狀もないけれども、斯う云ふ具合に母親に出たものが娘に乳が出なくなると云ふのも矢張り體質が變り、變質したのであります。斯う云ふ具合に各々問題を擧げて詳しく調べると此の通りの結果で、齲齒に就ての關係も、結核に就ての關係も、其他の病氣に就ても斯う云ふ關係が出るのでありま

す。

酒に對する婦人の心得

親の飲酒が子供に及ぼす影響は實に甚しいもので、此表を御覽になつただけでも能くお分りになるだらうと思ひます。斯う云ふ譯でありますから此飲酒の害を能く會得して此害を防ぐやうにお心懸げを願ひたい。それには飲む人に向つて直ちに禁めろと云つても却々無理な話で、又惰として飲む人の樂を削ぐと云ふことはどうしても仕惡い、まあ少くすると云ふ事――多く飲まぬやうにするのであります。

酒飲の學校

併し生來酒飲と云ふ者は殆んどないので、大抵の酒飲は酒を飲む稽古をする、稽古して酒飲みになる。酒飲みの稽古と云ふものは別に學校と云ふものがある譯でもありませぬけれども、併し實際に於て酒飲みの學校がある。酒を飲む人の家族に就て觀るに、親が常に酒を飲んで居ればどんなものかと思ふところから、親の盃に口をつけて見る、初めは口をつけると辛いから厭や顏をする、それから辛いのに懲いて厭な顏をするのを面白がつて、もう一杯飲んで見ろと云ふ風にして、又妙な顏をして舌打するのを面白がつて飲ませると云ふやうなことをする、それが二回も三回も度重なると辛い味を却て美味いと感するやうになつて遂に飲み方を覺えて來る、斯う云ふ具合に初めは大抵嫌ひであつたけれども、一滴二滴、一回二回と度重つて來ると、今度は厭な顏もせずに一杯位は飲むやうになつて來る、さうして醉たりなぞする、醉へば矢張子供でも平生よりは活潑になる、斯うなると外で見て來た踊りの眞似をしたり歌を謳つたりして子供ながらも愉快になる。それ等を、實に不心得な親で、面白いと云ふことから子供に酒を飲まして、醉つて踊つたり謠つたりするのを樂にして居る。さう云ふ風なことは親が不注意であつて自分で飲んで居る際に同じやうに子供に飲む稽古をさして居る。

親が子供を酒飲に養成する

是は神様の御造酒だから少し位飲んでも宜いと云つて飲ませると云ふことは極く悪いことで、禁酒會の人は私に向つて一滴の酒も毒であると言ふて異れと斯う云ふ註文を受けますが、それは私はやれない、一滴の酒で中毒すると云ふやうなことはないから中毒すると云ふことは言はぬけれども、一滴の酒も酒の味を覺える原因になる、それが十遍二十遍と重なれば初めは厭なものが後に美味いものになる、斯う云ふ具合に子供に酒を甜めさせると云ふことは母親の注意を要することである、それは怖るべき害を後に遺して酒飲になる、其酒飲を仕込んで居るのである、だから今日のところでは世間の人が知らず識らずの間に、父親でも母親でも、子供を酒飲みに養成して居ると云ふことは疑のない事實である、それが中學校に行くやうになつて少し害が現はれて來る、さうして親は酒飲みには仕込まないと言ふて居るが、さう云ふ風に親がちやんと仕込んで居る、であるから母親は能く注意してさう云ふことを避けなければなりませぬ。

酒が芽出度いものと云ふ觀念

どうも今迄の習慣として酒と云ふものが御芽出度い物になつて居ります。酒がお芽出度いと云ふことはどう云ふ考で酒を芽出度き物にしたかと云ふ理由は別として、唯醉うて心持ちが宜い、大多數が酒を飲むと活潑になる、心持ちが宜くなるから、それでお芽出度い、そこでお祝にも用ひることになつて來ましたが、酒の利害は知らずして唯目の前で酒を飲んだ時に心持ちが宜いと云ふだけで、さう云ふ觀念を起したのである。

神酒には清水が最適當

さう云ふ譯で酒が儀式にもお祭にも用ひられると云ふことになつて來たので、神樣にも御神酒をあげると云ふ習慣になつたのでありますが、今日の如く利害が明になつて見れば、酒を人に勸めたり神樣に供へると云ふやうなことは道理として間違つたことであらうと思ひます。神樣や何かは世の中の人の爲め

になるのであるのに、さう云ふ害になる物を侑めると云ふことは神様がお歡びになる氣遣がない。で斯う云ふ習慣は何の利害も知らぬ未開時代の考で、今日の如く文明の世の中になつては、何にも酒のみには限らぬ。初めは形式に一寸甜めて置くと云ふ位なことが漸く酒を多くの人に飲ませる原になるので、儀式は形さへあれば宜い、必ずしも「アルコール」を使はなくつても濟むに違ひない、火で沸かした水でも宜い、冷し水が一番清淨で人間に害がないからそれを獻げても宜い何も御神酒に限つて「アルコール」分を用ゐると云ふ必要はなからうと思ひます。

惡習改善の必要と利益

これは今日の如く智識ある者のすることではなく未開時代の知識の無い者が斯う云ふことをやつて威張つて居るのでありますが、形式と云ふものは大變尊いものである、併し、さう云ふことを深く考へて惡い習慣は改めなければならず、良い習慣は成るたけ壞さぬやうにしなければならぬ、で子供に酒を飲むことを覺えさせると云ふことの原因は何う云ふ風にしたら廢められるか、此上一切の知識が進んで來るに從つて、母親が決して子供は酒を口にするものでないと云ふことを心得て舐めさせないやうな精神を以て子供を教へなければならぬ、さう云ふ具合にして行けば防ぐことが出來る、又寧ろ儉約である。斯云ふ具合にして酒の害を防ぎ、一致して儉約して行けば、大分の金高の貯金が出來て、さうして酒の害が除けるし、子供にもさう云ふ癖を付けぬやうにすれば未來の國民は大害を免かれて自然に健全なる國民を造出すことが出來るのであります。で今日は唯子孫に及ぶところの害、子供の變質と云ふことだけに止めて置きますけれども、併しさう云ふ關係のものであるから、何とかして一般社會の人が此害を除くやうな心懸けをして戴かなければならぬ、是は唯一家の不幸ばかりでなく一國の富強の上に大變な關係がありますから、婦人として一家庭を作るにしても、夫しても、其娘を嫁にやると云ふにしても

大に注意すべきことである、又婿を貰ふと云ふやうな場合にも、先づ酒飲の人は避けねばならぬと云ふやうな譯になる。

余の希望

斯の如く酒を唯一時的の慾の爲に飲んで、其酒の爲に抵抗力が減り、病氣に罹り、短命にもなると云ふやうなこと、又子供に斯う云ふ害を及ぼすのでありますから、夫婦は自ら身體に注意して子供の幸福を祈り、子孫に斯う云ふ害の及ぶものを避けて、結婚のことなども考へておやりになれば、詰り不幸な境遇に陷ることも少なくなる譯であります。で今日お話したやうなことは始終應用の出來ることでありますが、それ等を一々申せば時間が長くなりますから此位に止めて置きまするが、どうか御婦人方は斯う云ふ點に注意なすつて下さるやうに、餘計に飲む人は益々少くなるやうに――私は酒の話を御婦人に向つて申上げるのではありませぬが、今日の如き御婦人のお集りに好んで申上げると云ふのは、御婦人方は御婦人方自身は酒を召上らぬとも、兄弟なり或は夫なりに對して、此の酒の關係を深く御承知になつて其害を防ぐと云ふことに努めて戴きたいので、一般社會の酒害を豫防すると云ふのは婦人の力に據るのが一番宜いことゝ思つて居るのでありますから、貴女方は能く此酒害と云ふことに御注意なすつて、子供には酒飲みの癖の付かぬやうに、又既に酒を飲んで居る者は、それを矯正して成るたけ節酒するやうに努めて戴きたい。

私は此お話を禁酒會の方で致すべき筈でありますが、斯う云ふ未來の母となられる多數の御婦人方に御聽きを願つて初めから實行して戴くと云ふこと、それが一番利益なることゝ思つて、今日爰に此お話をする機會を得ましたのは、私に取つては非常に喜ばしいことであります。何卒又斯う云ふ好機會を與へて戴きたいと思います。

叢談

日本人種改良問題

ドクトル 三田谷 啓

獨逸婦人の平均壽命は、以前より段々永くなつて參り、近年の調べによると平均五十五歳に達したと申すことであります。御承知の如く獨逸國に於ける商工業の進歩は、今度の歐洲戰爭の起るまでは旭日の勢でした。從つて女子が諸種の工場で勞働するもの、或は其他の職業を求むるものゝ數、大に增加しつゝありしに拘らず、斯くの如く平均壽命が永くなつたと申すことは、衞生の進歩とは言ひながら、一面には獨逸人種の誇りとすることが出來ます。

實際永く獨逸に居て、獨逸婦人の生活を具さに見ると、獨逸婦人の健康の度がよくわかります。

獨逸婦人の體格は、中々立派なものです。何しろ肥つて居て脊が高いのですから立派です。これは偶然の現象でも何でもない。よく考へて見ると婦人が衞生に重きを措く結果、かくの如く立派な體格を造ることが出來たのでせう。

御承知の如く獨逸の婦人は、家婦として仲々よく働きます。上手に家事を整へて行きます。衞生と云ふことにも餘程注意をして居ります。忙しい生活を送つて居る人でも矢張散歩の時間、運動の時間を造つて外出致します。

獨逸の婦人は、實際英國の婦人程に運動に狂することはありませぬ。けれども日本の婦人などに比べては大した差があります。

獨逸の婦人が自轉車に乘るとか、「テニス」をやるとか申すことはそれは申すまでもありませぬ。嚴寒肌を通す雪の日に橇に乘つて險しい坂や山を下る劇しい運動をして喜んで居る有樣は迚も日本では見られ

ませぬ。或は氷滑りなども好んでやりますが、何しろ攝氏の零下幾度と云ふ寒い日に外に出て喜び遊び戯るゝと言ふのであるから、それを見ても、婦人の身體がよく鍛えてあることがわかる。日本ならば先づ炬燵にでもぐり込む位なところです。

獨逸の婦人が概して強いことは事實です。旅行殊に山昇りなどを致す時には、旅行用の品物、例へば食事、洗濯用具、書物、地圖、旅行案内等の如きものを袋に收めてこれを丁度背嚢のやうに負ふのです。そして重たい靴を穿つたまゝ五里も十里も山昇りを致し或は雪中橇乘りなどを致し平氣で歸つて參ります。

私の下宿して居た家に一人娘がありました。自働車商店の店員とて、毎日家から通つて居りましたが、矢張り運動がすきで、冬になつて雪が降り初めると、土曜日に店から歸るや、男子のやうな服を著て、長い橇を携へて、近方の山に出掛け翌日の日曜日の夕方まで橇乘を續けるのです。あんな劇しい運動をしながら次の日の月曜には、また平氣で商店へ參つて事務を執つて居ります。

私の暫らく居ました獨逸のミユンヘンと申す都は其周圍に山が多くありますので、冬になつて雪が降り始めると、男と女が遊びに行きます、土曜日の夕方と日曜日の朝、其市の停車場に行くと多數の人々が橇を携へて汽車に乘つて郊外に旅行を致し、山で橇乘をやつて、日曜日の夕方に列を組んで市に歸りて來るのを見ることが出來ます。

獨逸では普通一年に二週間或は三週間程の休暇を有職者に與へることになつて居ります。例へば商店にて働ける人或は官吏等は思ひ〳〵の時に交代して此休暇を貰ふのです。私の居た宿の娘は何時でも冬になつて雪が降り出すと例の二週間の休暇を貰ひ、滿目白銀を敷いた雪の山に上り、例の橇乘りを致して二週間目に家に歸つて來るのが例でありました。

歩くことも獨逸婦人は仲々強いものです。私は獨逸の婦人と山昇、遠足などを致した毎に其強いのに

驚きました。三里や五里の散歩にはビクとも致しませぬ。歩調も仲々確です。男子などを追ひ越して參ります。

獨逸の大小都市には水泳場を有した浴場があります。年中泳ぐことが出來ます。婦人も盛に泳いで居ります。日本にも行々は斯かる設備が出來ると存じますが、游泳は女子にとつても適當の運動法であります。

一體運動と申しても、これに興味が伴つて居なければ實行、永續は六ケしいものです。游泳にせよ、「テニス」にせよ、乘馬にせよ、「ボート」にせよ、何れもやつて見ると面白いから續けることが出來ます。學校で習つた柔軟體操などを卒業の後に繰返す人のないのは興味が伴つて居らぬからです。

何は兎も角、獨逸婦人は右申す如く衞生に餘程重きを措く結果、體育と云ふことに注意致して居ることは日本婦人などの見習ふべきことだと存じます。獨逸の婦人は自ら市場へ物を買ひに參ります。大きな袋に買つたものを入れて、これを自分でさげて歸ります。日本の婦人には持てない程のものでも獨逸の婦人は平氣でさげて歩いて居ります。力の強いのは體格が立派だからです。

日本人種が體格改良を要することは、今日論のないところであります。これには男子も女子も一致協力して力を盡くさねば其效果はあがりませぬ。

右の日本人種改良を企つるに方つて必要なことは、日本人の生活方法を改めることであります。第一には食物の研究を致す必要があります。これは醫家の力を藉つて行ふことが出來ます。一體日本人が昔から食つて居る處の食事は健康を保ち、且健康を增進するに適當のものなるや否や、若し不適當或は及ばぬところがあると云ふことならば、それを改めねばなりませぬ。

日本の家屋が衞生上に缺點のあることは明な事實です。日本の家屋が可燃性の材料から成り立つて居ることは、人命、財産を安全ならしむと云ふ家屋の

目的に合つて居りませぬ。日本人が火災のために毎年毎年繰返して受くる處の損害は大したものです。日本の家は紙と木だからよく燒けてしまうのだ。燒けるやうに造つてあるからだ。日本人は何故もつと丈夫な、火に抵抗力の強い家を造ることを考へないのでせうと。不利益は單にこればかりではない。疊などと云ふ不衞生なものを用ひます。大掃除だと云ふと疊をあげて疊の下や、また牀下を掃除致します。併し疊の中を掃除しやうとは誰も考へませぬ。疊の表を換へても疊の臺を換えませぬ。病毒の黴菌が住んで居ても誰人も知らず顏に手をつけませぬ。そこで黴菌は天下泰平を謳歌して威張つて居ります。日本人が疊の上で坐る生活を致すと云ふことも衞生上の趣旨に反して居ります。下脚部や足の發達の惡いのは當然のことです。斯かる生活法の改良は矢張御婦人達が率先して行つて下さらねば出來ませぬ。足の痛むのに辛棒して坐り其爲めにみす／＼足の發育を自分ながらに妨げつゝあることは、よく考へて見ると馬鹿々々しい話ではありませぬか。又生活法を改良して日本人が、用事を早く片附け、時間の餘裕を造つて靜養するとか、運動するとかしなければ、身體の健康を増して行くことは出來ませぬ。そこになると前述の如く獨逸の婦人などはエライものです。時間を造り出すことが上手です。日本では何時ともなしに人を訪問したり、又西洋人なら二分や五分で濟ます用事に三十分も一時間も費して居ります。朝から來客にお茶や菓子を出すことはもうやめても宜いでせう。迚もそんなことを致して居ては時間がつぶれて仕方がない。西洋人が立つたまゝでサツ／＼と用事を濟ます機敏さはエライものです。その代り茶を飲むとか菓子を喰べると云ふ時間を特別に設けて、其時は腰を下して、ゆツくりと四方山の話などして樂みます。日本人程時間を無駄に過ごす國民は恐らく他の文明國に無いかも知れませぬ。

獨逸の婦人が小兒を養育して居る處を見ても、餘程面白いです。空氣に對する觀念も中々強いのです、そこで子供を守するにしても、家の中よりも外へ連れ出し公園等へ行つて子供を遊ばせて居ります。其際婦人は讀物とか編物とか、又は單簡な手仕事を持つて行つて子守をしながらやるのです、子供にも母親にも至極よいことです、空氣の好い處で時を過ごすと云ふことは。

日本などでは冬にでもなると、小供に無闇に厚著をさせます。時には子供が蒸される程に厚いものを著せます。風を引くから外へ出るなと注意する母親も少なくはありますまい。獨逸の子供はこれに反し、雪が降ると出ます。薄著で雪の中で運動をやるのです。お母さまに手を引張つて貰つて四つや五つで已に氷滑りなどを習ひ初めます。水泳ぎなども小學校で男女の生徒に敎へます。要するに獨逸では風にも雪にもよく堪え得る強い子供を造ると言ふのであります。日本のやうにしては抵抗力を弱らせる傾があります。

斯く並べ來れば、衛生上の點に於て、まだ〱盡きぬところがありますけれども、私は今それ等の點につき詳しく述べる暇がありませぬにより、ここで筆を擱きますが、要するに今日日本人が人種改良に力を用ゐなければならぬと言ふことは論のないところです。此目的を達する爲に御婦人達が大に御盡力せられんことを希望して止まないのであります。

乳房の疾患に就て

醫學士　鈴木平十郎

乳房は乳兒の唯一の榮養機關である乳腺と云ふ臟器を包含して居りますので、婦人にとりましては大切な場所であります、此の乳房は外部に露出して居り且授乳の關係から外力の影響を受くること多い爲に種々の疾患を起し易いのみならず、乳腺固有の疾患も尠くありませんし、且つ其内に危險な疾患も有

りますので、大に注意を拂ふ必要があります、都合の好い事には乳房は今申上た通り外部に在りますので疾患を發見することは比較的容易でありますから、早期に治療を加へることが出來、從て治療の效果が顯著である譯であります、然るにこの大切なる乳房に往々重篤なる疾患を引起すことが尠くないのは、其の多くの場合に於て世人が疾患の初期を輕視し、或は手術的療法に對する恐怖心から醫療を避け、姑息的の民間療法に依賴して遂に治療の機を失することに基因するのであります、これは特に乳房の疾患に際してのみでなく、總ての疾患殊に外科的疾患に際して痛切に感ずる事實であります、尙ほ之等原因を溯て考へて見ますと、斯の如く初期の疾患を輕視するとか、又は切られるのが恐ろしいとか云ふことは、全く此等疾患に關する智識を缺いて居るからであります、と申しても決して委しい醫學的智識が必要だと云ふのではありません、只常識として簡單なことを御承知になつて居れば、自然必要なる治療を怠ることは出來なくなる譯であります。

玆に於て大切なる乳房の疾患の如きものに關しては平易簡單なる說明を加へ、同時に之が豫防法を御話して前述の弊害を除き、且疾患を未然に防ぎ得る樣に努めるのは吾々の義務であると信じます。

乳房の疾患を平時に於るものと產褥に於るものとに大別して御話しいたそうと思ひます。

產褥中乳房の疾患

產褥中卽ち授乳時には最も外力の影響を受くること多く且つ乳腺なる臟器が盛に其官能を營む時機でありますから、外力に因する疾患竝に機能障碍が起り易いのであります、先づ外力に由て如何なる疾患を起すかと申しますと、重に乳頭卽ち乳首の周圍に乳兒の爲に咬まれたり搔かれたりする傷が出來ます、又屢〻露出して居り且種々の汚物が附著し易く、加ふるに此部の皮膚の抵抗が弱い爲め濕疹（じめ〳〵した痛痒の發しもの）が出來ましたり俗に「ねぶと」と云ふ樣な小さな腫物が出來ました

り、又は皮膚が荒れて「あかぎれ」の樣な裂傷を生じ、烈しい痛みの爲に惱まされることがあります。此等疾患其自身は治癒も速く別段重大な意義もないのですが、後に御話しいたします恐る可き化膿性乳腺炎と稱する疾患は大部分此等の疾患に續發するのであります、即ち小な傷口から入つた黴菌又は膿物中の黴菌が乳腺内に侵入した爲に起るのでありまして、決して之等小疾患を輕視することは出來ないのであります。故に豫め斯の如き疾患の發生しない樣に注意すること即ち豫防法を講ずることが頗る必要であります、そこでこの先づ豫防法から御話いたしましやうと思ひます。

妊娠の最後の月、即ち分娩時が近づいて來ましたら乳房を清潔にすることを心懸けなければなりません、之に由て常に黴菌を除くと同時に幾分乳頭部の薄弱な皮膚を強めるのであります、之が爲めには尠くとも毎日一回は乳房殊に乳頭部を微温湯並に石鹸で洗ひ、次に普通の藥用「アルコホール」を水で倍に稀釋したもので輕く拭ひ、最後に「ラノリン」か豚脂を極く薄く塗り其上を脱脂綿の如きものにて保護して置かなければなりません、此法は分娩後には殊更勵行しなければなりませんのですが、兎角怠り勝ちになりますので御注意を願ひます、此際塗布するには豚脂の方が宜しいと思ひます、授乳するさきは豫め「アルコホール」を以て脂類を拭い去り「アルコーホル」の充分乾くのを待て乳頭を乳兒の口内へ入れなければなりません。然しながら其度毎に「アルコホール」で拭いたり脂を塗つたりするのは甚だ面倒で殊に授乳時間の不規則なる場合には到底行へません且つ餘り度を重ねますと却て皮膚を刺戟し過ぎる虞れがありますから、毎朝微温湯石鹸「アルコホール」を清淨ならしむる他に一回乃至二回授乳時の暇を見て「アルコホール」で拭ひ脂を塗る方が宜しいと思ひます、冬期は之の勵行は困難となりますが、皮膚の荒れ易い時期ですから殊更注意しなければなりません。

若し前述の疾患を發見しましたなら早速醫療を受けるのが安全の策ですが醫者の便の惡い處に御住ひの方もありましようし又輕症であれば俄に醫者へ行くと云ふことも具合の惡いこともありましやう、斯の如き場合には應急の手當を施せば病勢の增惡を防ぎ得又輕病のものは之に由て治癒することもあります故此手當方法を心得て置く必要があります。

若し裂傷を發見しましたならば直に該乳房の授乳を中止し、前述の稀釋「アルコホール」にて拭ひまして、創面には十倍の硼酸軟膏、止むを得ずんば單に「ラノリン」豚脂等も塗布するのであります「キセロホルム」とか「デルマトール」とか散布藥が手に入る場合には之を極少量に散布して其上軟膏を貼て置けば一層宜しいのであります、疼痛の激しいときには五十倍硼酸を濕布しますと減退しますが斯るときには醫療を受けた方が安全です、咬傷、搔傷の療法も之に準じて差支ありません、傷があるとよく石炭酸又は昇汞などで洗ふ方がありますが之は傷に對しても亦皮膚に對しても有害であります、小膿物が出來ましたら、「アルコホール」を塗布し同時に硼酸水で罨法を施し、若し膿が出る樣になりましたら、硼酸軟膏を貼て置かなければなりません、又濕疹の出來ましたときは、若し痒さが强かつたならば硼酸水の濕布を施し、少し痒みが去りましたならば塗布藥を用ゆるのです、塗布藥にも種々ありますが簡單なのは亞鉛華と「オレーフ」油とを等分に混じたものであります。

（乳腺炎其他の疾患は次回）

結核と榮養

莊司秋次郎

脾脫疽と申しまして、稀に動物から人間に感染することのある一種の病氣が御座います、元來動物の間に起る傳染病でありますが、この脾脫疽を起す病原菌、即ち脾脫疽菌と云ふものは、種々の關係から細

菌學の研究上によく用ひられますが、この黴菌の餘り毒性の強くないものを採りまして、同じ量づゝ數頭の兎に注射して見ますると、何れも脾脫疽病を起しますが、その中の或ものは、これに耐へて癒る、他のものは早晚これが爲に斃れて仕舞ひます。つまり同じ條件の下に於て　動物の抵抗力に種々の差があるのであります。人間に於ても矢張同樣の關係がありまして、元よりその黴菌の毒力や、身體に侵入た黴菌の量などは能く分からぬと致しましても、窒扶斯とか「ペスト」とか云ふやうな全國を荒すほどの大流行病の際のみならず、流行性感冒とか結核とか云ふやうな普通誰でも感染すべき傳染病に對しましても、罹る人と罹らぬ人とがある、又罹つても輕く經過して直に恢復する人もあれば、これが爲に重症に陷て死亡するものもあると云ふわけで、實驗的に人間に就て抵抗力の試驗をすることは出來ませぬけれども、兎に角動物試驗と日常臨牀上の經驗から見まして、人に依て傳染病に對する抵抗力の差があると云ふことは事實であります。

それで起つて來る問題は、然らば如何なる事が、この傳染に對する抵抗力を強めるか、又如何なる事がこれを弱めるかと云ふことであります。先づ抵抗力を弱める方の側を申しますと、通常感冒、營養不給精神の興奮過勞などと云ふことは、どうしても傳染病に對する抵抗力を弱める事柄と認められます、併しこれとても動物試驗では悉く確かとは申されませぬ、動物を全く饑餓の狀態にして置いて種々の病原菌などを注射して見ましても、只或一定の病原菌に對してその抵抗力が弱くなることを證明し得るに過ぎませぬ、何れの病原菌にも感染し易くなると云ふことは確かでないのであります。

然るに主として含水炭素、即ち米とか馬鈴薯などのやうな物ばかりを澤山與へて飼養すると抵抗力が弱くなると云ふことに就ては、二三の一致した試驗成績が擧がつて居ります。尤も傳染病に對する抵抗力の强弱と云ふことは決して食物のみの關係に因る

ものではない、これには種々六ケ敷い、又今日未だ明かでない複雑な原因もありまするが、榮養と云ふことは直接間接にこれに大關係あることは殆ど爭ふべからざる事實であります。今こゝに二三の實驗例を擧げて見ますと。

千八百七十九年にフェーゼルと云ふ人が、含水炭素物卽ち穀物、馬鈴薯、砂糖のやうなものばかりで飼養された豚は、肉を以て飼養された動物よりも遙に脾脫疽に罹り易いと云ふことを認めましたが、ミュルレルと云ふ人は、その事實であることを證明致しました。

それから又ワイゲルトと云ふ人が、豚の子に就て試驗をした所で見ますと、一方に於ては前に申しました含水炭素、卽ち脂肪と蛋白質に乏しい食物で養ひ他の一方に於ては脂肪に富むで居る食物を與へて養つて置きまして、この兩方の豚の子に結核菌を感染さして見たのであります、而して愈々結核に罹つた所で、矢張各組をこれ迄の飼養法で續けて養ひましたが、これを後に解剖して檢査して見ました所が、主として含水炭素物で飼養された方の豚には、脂肪食を與へて養つた豚よりも著しく結核が蔓延して居つたのであります。

これで見ますと、脂肪を食はないものは結核菌に對して抵抗の弱いことが極めて瞭然として、頗る面白い成績でありますが、併し單に斯う申しただけでは、故障が起りませう。この成績を價値あるものとするのには、先づ各組の榮養條件が一致して居ることが必要であります、單に一方には馬鈴薯を食はせ一方には脂肪を含むだ物を食はせたと云ふだけでは駄目である、食物の量も各その燃價に從つて、卽ち身體の内で燃えて熱を作る分量に於て同一でなければ比較するわけには參りませぬ、それから又今日では榮養には鹽類と云ふものも多大の關係があると申しますから、その鹽類の分量が同一でなければならぬ、尙ほ水も同量でなければ、直ちに食品の相異のみでは論ずることが出來ませぬが、このワイゲル氏

の試驗では、各組の豚に、水で以て半分に薄めた牛乳を同量づゝ與へ、ずつとこれを續けて置て、それから各組に依て、一定量の蛋白と脂肪と、含水炭素を與へ、それもちやんと燃價に依て量を定めて飼養したのでありますから、大體申分の無い試驗成績と見て宜しからうと思ふのであります。

それから尙ほこの試驗に據て定めなければならぬことは、永い間一定の片寄つた食物を以て榮養すれば身體は、侵入して來る所の病原菌を防禦する力が強くなるか或は弱くなるか、尙ほ一定の種類の榮養品は、既に起つた傳染病、又進行しつゝある傳染病の蔓延に對して如何なる影響があるかと云ふ問題であります。

この試驗は次のやうにして行はれました、卽ち二腹から生れた十五匹の豚の子を、既に四週間目から離乳しまして、それから普通の豚の子を養ふやうにして飼養しました。而して總て薄めた牛乳を與へまして、これは後に別けてからも同樣に致しましたが、初の間は出來るだけ同樣にして育て、次で各々これに附加へて與ふべき食物に慣しまして、愈々その特別の食物に堪へるやうになつた所で、七頭の動物にその體重に應じて一定量の結核菌を皮下に注入し、殘の八頭は對照の用に供したのであります。

これに由て結核に感染した動物を四組に別けまして、卽ち脂肪の組と含水炭素の組と蛋白質の組と二匹づゝ一組に致しまして、殘の七頭は混合食で飼養したのでありますが、何れも牛乳に半分水を混ぜたものを與へ、それに各組に依て、同一燃價に相當するだけの脂肪と、蛋白と、含水炭素とを加へて與へたのであります。そこで脂肪には「バルミン」、卽ち椰子の實から製した「バタ」を與へ、含水炭素動物には砂糖と馬鈴薯を與へ、蛋白動物には「チース」を添物として與へました。而してこれが結核に及ぼす特殊の影響の顯になるやうに段々その添物の分量を增して行つたのでありますが、その中に咳嗽をする動物が現はれて參りましたので、解剖をして見まし

た所が、その成績は次のやうでありました。含水炭素、即ち馬鈴薯や砂糖のやうな脂肪も蛋白も含まぬ食物で養はれた二頭の動物の内臓、特に肺には結核の結節がベタ〳〵に出來て居りましたが。多量の蛋白質で養はれた二頭の動物には、只僅か結核結節があつたばかりである。

次に脂肪で養つた二頭の動物では、一頭の方は僅かしか結核が無かつたが、他の一頭には可なり澤山結核があつたのであります。

又混合食で飼養された動物にも可なり結核が廣がつて居りました。

これに由て觀まするると、矢張含水炭素動物は不良の影響を受け、蛋白動物は之に反して可良の影響を受けると云ふ説に一致して參ります。

然しこの成績を直に人間に移して、肉食をするものは結核に罹らぬ、或は結核の傳染に對して抵抗が強くなり、米や大根ばかり食べるものは結核に負けると断定を下すことは考へ物であります、前にも申ます通り傳染病に對する感受性、又體内に侵入した病原菌に對する抵抗作用と云ふものは非常に複雑なもので、單に榮養法如何に由て直ちに彼是と斷定する譯には行かぬのであります。然しながら右の如き注意強い動物試驗に依て實驗された成績は決してこれを無視する譯には參りませぬ、少なくとも動物に於ては蛋白質を澤山與へられたものは、含水炭素物で飼養されたものよりも結核に對して抵抗力が強いと云ふことは明かでありますから、兎に角我々人間も普通混食をして、一方に食品の偏頗にならぬやうに、特に出來るだけ蛋白質を多く攝取することは利益のあることゝ考へられるのであります。田舎の人は空氣と云ひ、その他の條件も、都會に住むで居る人よりは遙に結核に罹り難い佳良の條件の下に生活して居るのにも拘らず、その割合に結核に侵されるのは、恐らく都會の人よりも榮養に於て蛋白を取ることが不足であるからではなからうかとも考へられるのであります。種々の點から考へて私は傳染病、

特に結核に對しては成るべく平素肉食を多くすることが利益であると信ずるものであります。



育兒問答

(一) 生れたばかりの小兒の體重は何の位ですか、
男兒は三千二百「グラム」、女兒は三千「グラム」。

(二) 身長は、
男兒は四十九「センチメートル」女兒は四十八「センチメートル」。

(三) 呼吸數は、
一分間三十五乃至六十。

(四) 脈搏は、
一分間百三十六。

(五) 體溫は、
攝氏三十八度、產浴の後は一旦低くなつて、二十四時間の後には三十七度二三分となる。

(六) 初生兒の睡る時間は何時間位ですか、
二三箇月の間は乳を飮む時の外は殆ど眠る。

(七) 顖門は何時頃全く閉るものでせう。
十四箇月か十五箇月。

(八) 齒の生え初めるのは何時頃ですか、
平均七箇月。

(九) 小兒は何時頃から步き初めますか、
八箇月で坐り、一年の終に立ち、十三箇月で步行を試み初め、二年から步行する。

(一〇) 初生兒は幾回位大便をしますか、
生れてから十二時間ほどして胎便を排泄し、二三日で止む、一日二回乃至四回。

(一一) 小便は、
一日二十回乃至二十五回、牛乳榮養の兒は頻

繁に排尿する。

(一二) 臍帶は何時脫落ちますか、
生後五日乃至七日。

(一三) 初生兒の入浴溫度は、
攝氏三十八九度。

(一四) 初生兒には一日幾度乳を與へますか、
通常一晝夜七八回、卽ち三時間乃至三時間半每に授乳す。

(一五) マクリは與へなくとも宜しいのですか、
全く無用、有害、母の初乳は最良の藥である。

(一六) 牛乳で育てゝも差支ありませぬか、
牛乳は牛の子を育てるもの、人の子は母の乳で育てなければならぬ。

(一七) 乳の出ない時は、どう致します、
健康な他の乳兒に吸はせて見よ、或は成人に吸はして見よ。

(一八) それでも出ない時は、
已むを得ぬから乳母に附けよ。

(一九) 乳母は、どんな者を雇いませうか、
二十乃至三十歲、分娩後八箇月以內にして全く健康で能く人の出るもの、尙はこれは醫師殊に小兒科醫に選擇してもらうのが安全。

(二〇) 授乳者の禁ずべき食品は、
何もなし、只なるべく榮養に富むだ食物を宜しとす。

(二一) 藥もかまひませぬか、
殆ど差支なし。

(二二) 母乳を與へて惡い場合は、
重症の結核、癲癇、熱性傳染病、再び妊娠せる時、尙ほ醫師に問ふべし。

(二三) 牛乳の薄め方は、どんな割合に致しますか、

	牛乳	湯
一箇月	一	三
二乃至三箇月	一	二
三乃至四箇月	一	一
五乃至六箇月	二	一

七箇月	三　一
八箇月以上	全乳

これは大體の標準である、場合に依て種々に加減すべきは勿論のことである　尚ほ稀釋めた牛乳には少し糖類を入れる。即ち乳糖、滋養糖等、或は砂糖又は一%の「サッカリン」を百「グラム」の牛乳に一「グラム」程加へても宜しい。

（二四）一日に與へる乳の分量は、

第一日	三〇「グラム」
第二日	一二〇
第三日乃至第七日	二〇〇乃至五〇〇
第八日乃至第二十日	五〇〇乃至七〇〇
第四週中	七〇〇
第二月中	八〇〇
第三月中	九〇〇
第四月乃至第九月	一〇〇〇乃至一五〇〇

これも固より大體の見當に過ぎぬ。

（二五）煉乳も同樣の薄め方で宜しう御座いますか

「コンデンスミルク」は濃く且つ砂糖が非常に多いから只の牛乳と同樣の稀釋方では不適當である、その稀釋方は左の通り、煉乳一分に對する水の量だけを示す。

第一週	二十一分
第二週	二十分
第三週	十九分
第四週	十八分
第二乃至三月	十六分乃至十五分
第四乃至五月	十四分乃至十三分
第六月以上	十二分

（二六）牛乳の溫度はどの位に致しますか、

罎を頰にあて丶見て快い位の溫度

（二七）離乳は何時が適當ですか、

一年内外。詳細は前々號より本號に亙る宇都野學士の「離乳に就て」の一篇に就て見るべし。

離乳に就て（承前）

醫學士　宇都野研

離乳期の食物

離乳期の小兒は、まだ成人の食べるやうな食物の中の一部、而かもこれを特別に料理したものでなければ消化することが出來ないのでありますから、これは實際上極めて必要な事で、小兒科醫の方でも大に研究を致して居りますが、何分我邦の離乳期の食物としては從來、前に擧げたやうな物の外は餘り有りませぬので、玆には已むを得ず、西洋人が離乳期及びその續きの時期に小兒に與へる食品を御參考までに申上ることに致します。

古來乳齒が生えた時を以て粒食の時期に達したものとするのは、日本も西洋も同じでありますが、この乳齒が初めて生えた時には只反射的に唾液の分泌が多くなるだけで、咀嚼運動は小臼齒が生えた後、即ち十二箇月乃至十五箇月の後に至つて起るものでありますから、離乳期の食物は流動體又は半流動體の形で與へなければなりませぬ、又纖維の多いもの、不消化な物は與へることが出來ませぬ。

それで、この時期に與へる食品と致しましては、

一、種々の粥

この原料となるものは米、小麥、大麥、玉蜀黍の如き穀類、「アロールット」、「ラコー」、小兒粉等であります。

粥の製法は右の如き原料の粉を一茶匙ほど取りまして、それを少量の水で煉て、百二十乃至百五十瓦の煮沸した牛乳に入れ、絶えず攪拌しながら十分間煮る、それから調味料として少量の鹽及び糖を加へるも可い、又稍々生長した小兒なれば更に少量の牛酪を加へても差支ありませぬ。又小兒粉は一食匙を七乃至八食匙の水にて煮熟して與へます。我國に於きましてもチチノ粉、シン粉等の如き米の製品を以て早くより母乳不足の小兒を養ふ習慣があります。一體穀粉のみの榮養は、特に哺乳兒の初期に於ては危

険でありますけれども離乳期に與へるのには適當であらうと思はれます。その外、麥焦粉、蕎麥粉などを與へる地方もあります。

二、種々の「ソップ」及び「ブイヨン」

(イ) 細かにした「ゼンメル」、「タピオカ」、「セイゴ」、「グリース」(「グリース」と云ふのは普通玉蜀黍から製したもので「ヒキワリ」よりは少し細かい)等を牛乳に加へて煮たもの、これに少量の牛酪、食鹽及び砂糖を加味することがあります。

(ロ) 炙つた「パン」を水に浸して軟かにし、又は「ツウイーバック」(卵、豚脂、砂糖等を小麥に加へて燒き、それを小さくして更に一つ〳〵燒いたもの、即ち二度燒「パン」)或は「ゼンメル」を碎き潰して熱湯の中に入れ、粥のやうになるまで煮熟し、それに牛酪、食鹽又は砂糖、卵黃等を加へ、目の細かい篩にかけて、その漉した汁を與へる、これを麵麭「ソップ」と申します。若しこれに牛乳を加へて製らうと思へば、最初少量の水で煮て、その終に近づいて水と略ぼ同量の牛乳を加へるやうに致します、初から水を加へずに「パン」に直ぐ牛乳を加へて煮るときには長い時間牛乳を煮ることになつて榮養上好ましくないからであります。

(ハ)「ブイヨン」(肉煎汁)は四分の一磅の新鮮な肉を四分の一「リーテル」の水に加へ、これに米、穀粉、「グリース」、「タピオカ」、「ゼンメル」等の何れかを一小兒匙の割に加へ、又は卵黃を入れる、食鹽は加へる必要がない。斯うしたものを半時間乃至四十五分間煮沸し、減つたゞけの分量は熱湯を加へて補ふのであります。何も混ぜない只の「ブイヨン」は含水炭素はなし、蛋白も脂肪も僅か含むで居るばかりで甚だ榮養價に乏しいものでありますけれども、鹽類、殊に「カリ」鹽類に富み且つ芳香體の物質を多量に含むで居りますので、食慾を增進させる作用があります。その榮養價の不足な所は上記の加入物を以て補はれます。但し原料たる肉類は新鮮なものでないと消化不良を起すことが

ありますから、その都度新鮮な肉類で調製して與へるやうにしなければなりませぬ。

三、離乳期に於ける其他の食品

(イ)鷄卵　は八九箇月の頃より好んで與へられる食品でありますが、最初は卵黃だけを與へるが宜しい、卵黃は卵白に比して脂肪と石灰とに富み、卵白のやうに腸の内で容易に腐敗醱酵をすることがないからであります。十五箇月頃よりは卵白も卵黃と共に半熟にして與へます、然し小兒の中には鷄卵に對して種々の反應を呈するものがありまして、或は下痢し或は却て祕結し又は一種の發疹がすることがありますから、卵を與へますときにはこれに注意しなければなりませぬ。

(ロ)肉類　は十八箇月乃至二十箇月の頃から與へます。最初は新鮮な魚肉を與へ、それから鳥の「サヽミ」、牛の「ヒレ」肉などを挽肉として與へる、但し魚肉は一年以内に與へても大抵の小兒は別に障がないやうであります。我國にて從來離乳期に與へる魚類は鰈、比目魚、梅魚、鷄魚、「アマタヒ」のやうな所謂白肉の魚類であります、

(ハ)「ピウレ」　これは野菜の粥或は「キントン」のやうなものであります、例へば馬鈴薯、豌豆などを原料として製する場合には、馬鈴薯は茹で、豌豆は豚脂と水とを入れて煮、何れも裏漉にして、馬鈴薯の方は牛乳を加へて煮熟して「キントン」のやうにし、豌豆の方は食鹽又は「ソップ」を入れて煮沸して粥狀に致します。

(ニ)果物　果實汁は新鮮な果物、例へば香橙、櫻實西洋苺、葡萄實などから榨つた汁を一茶匙乃至二茶匙づゝ一日二三回與へることがある。又所謂「コンポート」及び「ムース」は何れも果實を煮てどろ〳〵したもので、製らへて直ぐ食べるものでありますが。斯樣に製したものを鑵詰にしたのが「マルメラード」と稱するものであります。獨逸人の「アインゲマッハテ、フルュヒテ」と云ふのも矢張鑵詰或は罎詰にした果實で「ジャム」のやうなも

のであります。それから獨逸の所謂「ゲデムプテ、オープスト」と云ふのは、果實の皮を去つて鍋に入れ、糖を加へ、蓋をして蒸煮したもので、果實は著しく軟くなります。又果實の「ジエリー」は果實を水で煮た汁を布で濾し、その濾した液に砂糖を加へて久しく煮詰め、膠位の稠度にしたものであります、これは早くから與へますけれども、その他の果實製品は十八箇月頃から與へ、生の果實は滿二年以後でなければ與へるわけに參りませぬ。

（ホ）野菜　は果實よりも早く、已に一年前後より與へます、菠薐草、胡羅蔔、花椰菜等は普通に用ひられるもので、何れも粗大な纖維はこれを除き、前に述べた「ピユレー」の製法に依て調理して一二食匙づゝ與へるのであります。一般に野菜を與へますと、乳兒では大便の中に原の色のまゝで出て參りますけれども、これは別段意味のないことでありますから、驚く必要はないのであります。

子守の心得

廣島縣雙三郡三次町に町立子守學校と云ふのがありまして、子守を教育し、その品性を陶冶し、知能を啓發し、幼兒保育の方法を會得せしむるを趣旨とし去る明治三十三年四月に創立せられて今日に及べるものでありますが、頗るその成績が良いと云ふ評判であります。今同校に於て制定せる「子守の心得」を見ますると、大に參考とすべきものがありますから、こゝに之を掲載して普く會員諸姉に御紹介致します。

子守の役目

一、子守は子供の母親を助けて、子供を育てる、最も重い役目であります。

二、子守は父母、主人、其他目上の人に對しては、よく其命令に従ひ、先生の教へは確く守つて、一心に己が役目を勉めねばなりません。

三、子守の心の善惡は、すぐに子供の心にうつるものでありますから、子守は常に正直にして、虚言など言つてはなりません。

四、子供は又子守の行を眞似るものでありますから、子守は常に禮

依を重んじ、言葉遣ひ、立居ふるまひにも氣を付け、子供の手本とならねばなりません。

五、子供は親切に取りあつかひ、猥りに叱つてはなりません、子供は可愛がれば可愛がる程、其人になづくものです。然し、無暗に子供のきげんを取つて、我儘のくせをつけてはなりません。又子供に出來る事はなるべく子供にさせなさい。

六、子供の身體は、極めてか弱いものでありますから、常に氣を付けねばなりません。

子供を脊負ふ時の心得

一、子供を脊負ふ掛帶は、幅の廣い天竺木綿で、長さ九尺以上のものが一番よろしい。

二、子供を負ふには、帶を子供の脇の下に通し、子守の肩から胸にとり、其所にて一つ結び、後へ廻し、幅を擴げて子供のお臀を包む樣にし、又前へ廻はし、ゆすり上げながら結びて、ずり下らぬ樣にするのです。

三、子供を負ふに、股を餘り廣く分けるのは、子供の爲によくありません。

四、子供の眠つた時は、手拭にて子供の頭から自分の肩にかけ、前にて結び、首のぐらつかぬ樣になさい。又赤子の中は眠らないでも、首がぐら／＼するから、氣を付けねばなりません。

五、頭の髮が亂れて、負ふてゐる子供の顔にかゝるのはよくありませんから、髮の毛が亂れたなら、手拭で鉢卷をして、前にて結びなさい。

六、頭の髮は惡い臭のせぬ樣に、おり／＼洗ひなさい。併し香の高い油などつけてはなりません。

七、子供を負ふたまゝで、物にもたれたり、又うつぶしに臥してはなりません。

八、子供を負ふ前に、子守の襟から肩に、一尺五寸位の清潔な布をかける事は至極結構です。

九、子供を負ふて走つたり、子供の頭のはげしくゆれる樣な遊びをしてなりません、若し餘儀ない場合には手を後へ廻はして支えなさい。

十、子供を負ふたならば、わけてころばぬ樣に氣をつけない、鼻緒のきれそうなはきものや、齒のかけた下駄をはいて居るのは危い事です。

十一、子供を負ふて外へ出る時は、暑い時には日かげにより、寒い時には日なたによりなさい。

十二、負ふた子供が泣くからとて、強くお臀をたゝいたり、又無暗にふり動かしてはなりません、いろ／＼手當をして機嫌をとりなさい。

十三、負ふた子供を下す時は、成るべく人に手傳つて貰ひなさい、若し人の居ない時には、跪いて敷物の上に靜に下しなさい、立つたまゝする／＼と下してはなりません。

十四、子供を下すには、近所に危いものや、きたないものあるかないかをよく調べて下しなさい。

十五、子供を地上に下すのはよくありません。

十六、子供を椽などの高い所に下した時は、少しの間でも目をはなしたり、そばを離れてはなりません。

十七、子供を下すに安全な場所でも、その近くに豆や、もみなどの

干してある所は氣をつけなさい。耳や、鼻の穴にそれを入れて困つた話はいくらもあります。

十八、子供を下した時は、お臀や足の冷えぬ樣にするのです。夏でもむき出しではよくありません。

十九、子供を下すと直ぐにおしいをさせる事を忘れてはなりません。

子供を抱く時の心得

一、子供の抱き方は、兩手で寢臺を作つてやる積りで工合よく抱くのです。片手に物を持つたまゝ抱いてはいけません。

二、子供を抱いて歩く時は、よく足元に氣をつけて、物につまづかない樣になさい。

三、子供を抱いて居て、湯茶を呑んだり、あぶないものを持つたり、子供のためによくない食物をたべて見せたりしてはなりません。

四、子供を抱いて、とび歩いてはなりません。

五、子供を抱き上るには、跪ばいて片手を子供のお臀の下へ入れ、片手で背をおさへて靜に抱くのです。立つたまゝで紐手をとつて引上げてはいけません。

六、子供を寢せて着物の紐をしめる時は、少し寬い位になさい。さうでないと起してから、少し窮屈になるものです。凡て紐や帶は餘り堅くない樣におしめなさい。

子供を歩ませる時の心得

一、子供の歩み初は、兎角後へ倒れ、ひどくおしりをうつことがありますから、氣をつけねばなりません。

二、子供の手を持つて歩ませる時は、其手を高く取り上げたり、又は強く引つぱつたりしてはなりません。

三、子供の歩む時は、其足元に氣をつけなさい、又危い所に近寄らせてはなりません。

四、子供に不相應な重い履物や、大きな履物をはかせてはなりません。

五、子供の氣を引くために嘘を言ふたり、おどかしたりして、つれ歩くのは惡い事です。

子供を遊ばせる時の心得

一、馬や車の繁く通る往來で、遊ばしてはなりません。

二、どんな事があつても、嘘で子供をすかしたり、子供に嘘を言はせたりしてはなりません。物心が付く頃になりますと、何時しか嘘言であるといふ事を悟つて、遂には守や親のいふ事は、何でも嘘言である樣に感ずる癖がついて、誰のいふ事も少しも肯かなくなり、其爲に我儘になる恐があります。

三、子供を驚かしたり、怖がらせたりしてはなりません。こゝに氣をつけぬと、病氣をおこしたり、惡い癖のつくことがあります。

四、蜻蛉、蝶、蛙、蛇等の動物を苦しませる樣な遊びをさせてはなりません。

五、小刀、鋏、錐等の刃物や細長い竹片や、「ガラス」製の器などは怪我をし易いものですから、小さな子には持たせぬ樣になさい。又風船や鍵、針、釘、お錢、簪、釣針等を呑み込みて、生命を失つた例は澤山あります。氣をつけねばなりません。

六、凡て子供をあそばせるには、なるべく自由にまかせておき、そして常に十分氣をつけて居ることが肝要です。

多數の子供と一所に遊ばせる時の心得

一、多數の子供と一所に遊ばせる時は、自分の子供が喜ぶとも、他の子供に怪我をさせる樣な心配のある物を持たせてはなりません。

二、子供同志で、玩具の取換をさせぬ樣になさい。又他の子供の玩具を借りて與へるのもよくありません。病氣傳染(「ヂフテリー」等)の虞がありますばかりか、他人の物を羨むといふ癖をつけます。

三、子供に食物を與へるには、他の子供にも少しづゝ分けて與へるのです。自分の子供にばかり與へて、他の子供に見せて居るのはよくありません。

乳母車に乘せた時の心得

一、「ゴム」輪でない乳母車には、赤ン坊は成るべく乘せぬ樣にしなさい。

二、子供を乳母車に乘せるには、極く暑い日や、寒い時、又は風の強い日などにはよくありません。此樣な日に引き廻はしますと、柔かな身體に暑さ寒さがとほつて、病氣になることがあります。

三、乳母車の中で、子供が寢入つた時は、其まゝ暖かにして靜に寢かして置きなさい。

四、子供を乳母車に乘せて歩く時は、外見をしてはいけません。いつも車の行く先に氣をつけなさい。

五、子供を乳母車に乘せた時は、無暗に走らせてはいけません。わけて下り坂や、でこぼこな道は餘程氣をつけないと、怪我をさすことがよくあります。

六、子供を乳母車に乘せて置いて、側を離れて遊んではなりません。子供が立ち上りて車が轉覆し、怪我をすることがあります。

子供の眠つてゐる時の心得

一、よく眠る子は丈夫なりと申して、子供の眠るのは最も大切なことです。それゆゑ子供が眠つたら、成るべく靜にして眼を覺さない樣になさい。決して無理に起してはなりません、眠が不十分であると眼が覺めたとき、子供の機嫌がよくありません。

二、枕は餘り高くないのと、堅くないのがよろしくあります、

三、枕や、布團や、寢まきは、時々日光に晒して乾かしなさい。

子供の泣く時の心得

一、子供は言葉を知らないために、泣き出して自分の心を表はすのであります。その泣き聲をきゝ分けて、早速手當をすることが必要であります。

二、生れてから六ケ月位たつた乳兒の泣き聲をきゝ分けて見れば、左の六つであります。

1 自分の思ふ樣にならない時は、さも憤れたい風にはげしく泣きさけびます。この時は靜になだめるのです。

2 あくびをしては泣き、泣いてはあくびをするのは、ねむたい時でありますから、靜かにねさせるのであります。此時は泣

き聲を「オルガン」と思つて、其泣き聲に應じて子守唄を歌いなさい。

3 涙も出さず何となくあわれそうに泣くのは、腹がへつた時なので乳をあげる時刻が來たのであります。

4 泣き聲が耳をさす樣な高い聲で泣くのは、齒か耳の痛い時でありますからお醫者に見て貰ふ樣になさい。

5 泣き聲がやんだり、また泣き出したりして、兩足を縮め力をこめて泣くのは腹の痛む時です、早くお醫者に見て貰はねばなりません。

6 其他身體に故障ある時は、其局部によつて泣き方が違ひます。よく氣をつけて見なくてはなりません。

三、嬰兒が泣きさへすれば、直ぐに乳をのませる母親がありますが、これはよろしくありません。泣き聲を聞きわけてそれ相應の事をせねばなりません。

四、生れて二ヶ年位の嬰兒になりますと、身體や智識が大に發達して居りますから、その泣き方も亦發達して居ます。これを大別すれば、左の六種になります。

1 眼を開き、涙を多く出し、小聲で泣く時は、身體に痛み所のある時です。此時は直ぐに下して、背負ひ直しなさい。夫れでも尙ほ泣き止めません時には、身體を能く調べておやりなさい。

2 眼を細め、眼の中に少しくうるみを生じて泣き、何となく身體がゆるんで、重く感じますのは、睡くなつた時です。此時は靜かに身體を搖りながら子守唄を歌ふのであります。

3 眼を開き、涙を出さず、頭を左右に動かして泣くのは、退屈した時です。此時は背より下して抱き歩き、玩具、小鳥、草花等を見せなさい。

4 眼を開き、涙を少し出し、聲に節をつけて泣くのは、腹の減つた時か、水を飲みたい時です。此時は早く乳が、ぬるみ湯を與へなさい。

5 眼をあけたりふさいだりして、涙を出さず、力をこめて身體を活潑に動かし、高聲を發して泣く時は、身體の發育に必要のある時ですから、此時は焦燥らずに十分間位其儘泣かせて泣き聲の低くなつた時、抱いて玩具、繪、小鳥、草花などを見るがよろしい。此泣叫は其子の身體發育に必要な運動を與へるのですから、食物などをやる必要はありません。

6 急に高い聲で身振をして泣くのは、周圍にある物を見て驚き恐れた時です。此時は直ぐに背より下して、手拭か自分の袖を子供の顏におほひて、他へ行くか、又は其まはりの物を取りのけなさい。子供の夜泣は、此樣な時に生ずるのが多いのです。

兩便の時の心得

一、大便は每日時をきめてさする樣にしつけ、其時をはづさぬ樣に氣をつけなさい。子供を背負ふ時と、背から下した時とは、出ても出なくても、便所に連れて行つて見るのです。

二、大小便をさせる時は、子供のからだを工合のよい樣にしておやりなさい。

三、子供に大小便をさせる時には、成るべく便所にさせるのです。止むを得ない時でも、成るたけ人目にかゝらぬところがよろし

い。

四、兩便所は汚さぬ様注意しなさい。

五、子供の身體に異狀があると、直に大小便の色や、様子が變りますから、大小便をさせる時は、よく注意しなさい。そして若し小便が濃い黄色味を帶びたり、大便が常と異つたり、又は下痢する時は、其事をすぐに親にお告げなさい。

しめし取扱の心得

一、しめしは、なるだけ叮嚀に洗ひ、いつもきれいにしておくのです。

二、しめしが濡れたり、汚れたりした時は、すぐに取換ればなりません。又其汚れたしめしは直ぐにお洗ひなさい。

三、しめしは必ず縄を張るか、又は竿にかけて人目にかゝらぬところにほすのです、地上にほすのはよくありません。

四、しめしを干したら、たゝんで定まつた、入物に入れて置くのです、必ず取り散らしておいてはいけません。

五、子供のしめしを取りかへる時は、よくもみ、やはらかにしてあてればなりません。そして兩足をグイ／＼激しく持上げぬ様になさい。

子供の身體を清潔にする心得

一。子供を湯に入れた時は、首、腋の下、股、指の間等總て能く垢の溜る所をよく洗ひなさい。そして湯の加減にも氣をつけなさい。

二、子供を湯から上げた時は、乾いた手拭でよく拭ふのです。そして首、腋の下、股などは、ことに氣をつけて拭かないと、たゞれることがあります、

三、子供の手の指は、たび／＼洗つてやりなさい。汚い物や、蟲の付いた物を持つたりすることがありますから氣をつければなりません。

四、子供の手足の指の爪は、度々切つておやりなさい。

五、子供の鼻汁をよく出しますから、度々ふいておやりなさい、又顔も折々洗つておやりなさい。

六、子供が食事をした後は、清潔な布で口の周圍を拭いておやりなさい齒の不潔は蟲齒の原であります。

七、子供の耳の垢は、折々とらればなりません。併しこれは餘程危いから氣をつけなさい。

八、子供の下著は、度々洗つておやりなさい。

怪我をした時の心得

一、子供が火傷をした時は、「グリスリン」、明か、又は何油でもよいから其所に塗りつけ、其上を脱脂綿でおほひ、餘りいぢらないで、お醫者へ頼むのです。又冷水で十分に冷したゞけでもよくあります。

二、鼻血の出る時には、靜かに仰けに寢せ、冷たい水を布に浸して頸部、鼻部を十分冷すのがよくあります。又明礬水を綿に浸して、鼻の孔にさし込むのもよろしくあります。

三、子供が轉んで、腕や腰のあたりを打つた時は、主人より叱られるのが怖さに、かくして置いてはなりません。そして直ぐお醫者に見て貰ふのです。

四、打ちきづをした時は、少々と思つてもなほざりにせず、「ヨヂウ

ムチンキ」をつけて繃帶する事になさい。唾などをつけて、其儘にしておくのはよろしくありません。此擦傷から病菌が入つて、大病を起す原になる事があります。これも冷水で十分冷すのがよいのです。そのしかたは、「ガーゼ」に冷水をひたしてよくしぼり、これをすり傷の上にのせ、其上を繃帶するのです。

五、眼の中に物のはいつた時は、指で瞼を開き、下の方を見せなさい、大抵涙と共に流れ出るものであります。しかしこのときむやみに眼をこすつてはいけません。

六、子供がものを食べて居て、眼を白黒にする樣な事があつたら、直ぐに鼻をつまみて口を開かせ、指を入れて其物を引き出すか、又は背中を強く打ちなさい、菊弱等をたべて死んだためしもあります。

七、蚊蟲にさゝれた時や、蜂其他の昆蟲にさゝれて其所が腫れ上り、痛い樣なかゆい樣な時は、其所に「アンモニヤ」を塗りなさい。又食鹽をつけてやるのもよろしくあります。

種痘中の心得

一、肌じゆばんはなるべく毎日垢のつかないのを着せなさい。糊のついたのはよろしくありません。

二、入浴は一週間はさせてなりません、併し顔、手足等を洗ひ腰湯をつかはせるのはよろしくあります。

三、種痘は濕さぬ樣、こすらぬ樣、かき破らぬ樣注意しなさい。又疱皮を無理にはぎとつてはなりません。

(以下次號)

家庭衞生

凍傷の豫防

第一に手足を清潔にし、能く乾かして置くことが大切である。冷たいときには皮膚が温かになるまで摩擦するが可い。脂肪氣の少ないものは、動物性の脂肪を塗るが可い、「ワゼリン」のやうなものでも差支ない、「グリセリン」も宜しい。若し少しヒビが切れかゝつたならば左の如き處方の藥を塗つて效がある。

苛性「カリ」	一・〇
「グリセリン」	四〇・〇
「アルコール」	四〇・〇
水	一二〇・〇

香をつけたければ「ベルガモット」油、薔薇水、「ラヘ

ンデル」何でも適宜に數滴加へれば宜しい。尙ほ少しひどくなつた場合には「タール」軟膏、「イヒチオール」軟膏などを塗つて效能がある、その他凍傷、凍瘡の藥は無數にあるが、何れも皮膚を柔にし且つ少し刺戟を與へる性質の藥である、頑固なものは醫師の治療を要する。

藥の飲み方

○水藥○　通常一日三回に處方せられる、又食前或は食後何の位時間を經つてから飲むべきかゝ指示される、これが指示してない場合は大抵何時でも差支ないが、尙ほ念の爲め藥局で問合はすが宜しい、飲む前には一二回振つて杯或は匙に注ぐ、これは沈澱を生じ易い藥の時に殊にさうである、さうでないと、上澄の藥は效能が薄く底に殘つた分は濃くなつて中毒を起すやうなことがあるからである。尙ほ酸味のある藥は金屬の匙で飲めば匙が溶ける、而して銹びる、味の惡い藥ならば飲むだ後で含嗽する。精神の恍惚してゐる病人には、喉頭の方に藥が入らぬやうに少しづゝ注意して與へなければならぬ。小兒があばれて飲まぬときには、口を開いて泣くときに靜に注ぎ込むで危險はない、幼少の小兒は一寸鼻をつまめば口を開くものである。

○散藥○　大抵一回分が一包づゝになつて居る。一日三回、或は朝夕二回、又頓服藥として一回ぎりの處方もある。飲むときには前に湯なり水なりを少し飲むで、それから舌の上に藥を載せて水で飲めば、むせることがない。味の惡い藥なれば「オブラート」に包むで飲む、卽ち小皿に水を少し入れて、その上に「オブラート」を一枚浮べ、その眞中に藥をあけ、周圍の方から小楊子か箸で以て包むで啜り込めば宜しい。小兒は咬むでしまふから「オブラート」は駄目である、矢張砂糖水或は葛湯、又は水飴のやうなものに混せて飲ますが可い。

○丸藥○　これは大抵飲み惡い、味の苦いやうな藥であ

るから、咀み碎いてはいけない、そのまゝ水か湯でぐつと飲み込むのである。それも一粒づゝ飲むのは却て煩はしく飲み苦いものである、一回分だけ三粒なり五粒なり一度に飲む方が具合が好い、錠劑も同樣であるが、この方は味の爲よりも寧ろ貯藏に便宜で服用にも都合が好い爲にしたものが多いから、比較的形の大きいものもある、斯樣なものは二口か三口に碎いて飲むで宜しい。此の種類のものは小兒には不向である。

○滴劑○　これは大抵水或は砂糖などに滴して度々用ふるやうに處方されるもので、藥の成分が濃く、又揮發性のものが多い、それ故に熱い湯に滴せば氣が發てしまふから、その場合には水に滴すか或は角砂糖のやうなものに滴下して用ふるのが適當である。滴數を嚴重にするのには、その爲に滴罎と云ふものが出來て居る。

○膠囊劑○　これは味や臭の餘り好くない且つ油のやうなどろ〳〵したものなどで散藥にも水藥にも不適當な藥のことが多い、小さな硝子の鐵砲丸のやうに出來て居るが、胃に行けば溶けて仕舞ふから心配なしに丸藥の如く嚥込むで宜しい、大抵食後直ちに飲むのが通則になつて居る。

○油劑○　蓖麻子油、卽ち「リチ子」油又は肝油の如きもので、これは比較的用量も多く且つ頗る飲み惡いもので、往々どうしても嘔氣を催して飲めぬと云ふ人が少なくない、その時には朝顏形の「コップ」に麥酒或は茶を注ぎ、その上に油劑を落して、ぐつと一息に飲むのが宜い、或は卵の白味を十分攪拌して泡沫を立て、それに油劑を滴して飲めば飲み易い、尙ほその後で「ビスケット」か鹽煎餅のやうなものを咀嚼ば口の油がとれて後口が好くなる。

總て藥の量及び服用時間は醫師の處方指圖通りに正確に守るべきことは申迄もないことである。

衛生私言（承前）

莊司秋次郎

冷水摩擦

朝起きて寢卷から常服に著更へる前に冷水浴或は冷水摩擦をする人がある、又かなり流行して居ります。これは皮膚の軟弱な人、肥滿した人などには頗る宜しい方法と思ひますが、これを行ひますのには、殊に冬などは隙間の風に當たらぬやうに十分注意してやらなければなりませぬ。然し注意しても、これが爲に却て害を受ける人もあります、僂麻質斯のやうな氣味が起つたり、或は神經が過敏になるやうなことがあります、殊に小兒に對して不注意に冷水摩擦を實行せしめますと、氣管枝加答兒を起したり、幼少のものでは神經が過敏になつて不眠症などに罹ることもあり隨分不結果を見ることが尠なくない、それで何人もこれを行ふことは一寸考へものであります、私は少なくとも十二三歲以上の小兒でなければ敢て勸めることは致しませぬ、それも初は溫い室の內で、略ぼ體溫位或はそれよりも僅か低い位の溫度の水で身體を拭くに止め、若し故障もなく實際良い結果が見えるやうであれば漸次冷水に移るやうに致し度いと思ひます。皮膚を氣溫の變化に慣らして、風などを引かぬやうにと云ふ練習には、朝牀を離れた時に、一旦寢室の窓を悉く開けて空氣を入れ替へ、再び窓を閉ぢ、裸體になつて暫時簡單な體操を行へば宜しい、體操などゝいふ程のことでなくとも只欠伸をしたり、脊伸をしたり、下肢や身體を我儘に心持の好いやうに運動させれば、それで結構であります、而してそれも段々慣れて來れば窓を開けて直接朝の空氣に觸れ、新鮮の冷氣を吸ふも感冒に罹るやうなことがなく、非常に爽快を覺えるものであります。尤も氣候の變化が烈しく、急に寒くなるやうな場合には固より冒險しなくとも宜いことであります。

一體感冒に罹るのは、朝晚衣服を著更へる場合に、

一寸のはづみで風を引くことが少なくない、特に兒童が學校服を日本服と著更へる際に風を引くことが多いやうに思はれますが、前に申しましたやうな空氣浴法に慣れて居れば、容易に斯樣な場合に風を引くことはありませぬ。然しこれとても強ち是非必要な方法と云ふわけではありませぬから、快く思ふ人は實行して見るも宜しからうと申すまでのことであります。

衣服

衣服は衞生上より云へば體溫の調節を更に人工的に調節するのでありまして、先づその季節に於て暑からず寒からずと云ふ程度に著れば宜しい、昔から云ふ通り輕くて暖かいのは先づ上等の衣服に相違ありません、毛織物、絹、木綿、麻布等種々の地質のものがありまして、何れも一得一失がありますから、その衣服の種類、季節、氣候に依て何れも適當に應用せられます。衞生の方では溫の傳導、濕氣の吸收力、通氣、尙ほ染物の關係などを論じますが、凡て如何なる種類の織物でも、その織目の中に多く空氣を含むものが溫を傳導することが少なく、從つて暖かい、又毛綿類は元來濕氣を吸ふ力が強いものでありますけれども、織物となれば却て濕氣を跳ねつけて水分の吸收が少ない、木綿、麻、絹と云ふやうに段々水分の吸收が強くなります。水を含むものは、どうしても空氣の通も惡い譯であります。尤も衣服に綿を入れるとか、二枚にするとか、種々の組合はせに重著をするとか云ふことに由て、關係が違つて參りますけれども、經濟の點から云ふても、衞生上の點から云ふても木綿や「フランネル」などは大變都合が好い織物だと思はれます。禮服とか華美の爲めとか云ふ方の點は、どうでも可いと云ふ譯ではありませぬが、姑くこゝには差措きまして、只餘り窮屈な著物の製方は宜しくない、殊に小兒の著物は少しも窮屈な所があつてはならぬ、胴の處を紐のやうなもので強く縛ることも不可ない、歩くときに脚にからまるやうな著物も惡い著物である、大きな厚い重

い帶なども餘り感心したものでない、況や「コルセット」の如きものは甚しい非衞生的の道具で、斯樣なもの丶輸入は極力排斥せなければなりませぬ。其他は身分相應に著からず悪からず、社交上禮儀を失せぬやうにあれば、それで衣服の效用は十分で、衞生上からも別段やかましく言ふほどのことはなからうと思ひます。

食事

今日では、定まつた食事は普通朝、晝、晩の三度で晝食は大抵十二時前後になつて居ります。この食事の時間に就て考ふべきことは、第一に胃の消化時間食物が胃の内に止まつて居る時間であります。その時間は勿論食物の種類、その他の事情に由て異りますけれども、先づ大抵一回の食事に食べた食物は五時間内外で胃を去て腸の方に行つて仕舞ひます、それで健康な人は普通五時間隔て丶食事をするのが適當とされて居ります。それ故に正午に晝食をするものとすれば、朝食は午前七時頃、夕食は五時前後が適當と云ふ割合になります。尤もこれは各人の仕事の具合で一概には申されませぬが、一日平等に仕事をするものとすれば斯う云ふ時間割で、實際我國では普通こんな風に行つてゐるやうであります。然し夕食が五時で、朝食は翌日の午前七時と致しますとその間が十四時間もありますから、夜間は休息し睡眠すると云ひましても餘りその間が長過ぎる、それで此の間の調節をする爲に、晝食の時に澤山御馳走を食べて夕食の時間を二時間は後に延ばすか、或は三度の中の最も主なる食事を夕食にして、ゆつくり澤山食べるやうにすれば宜しからうと思ひます。これも實際に於て略ぼ自然に斯な風に行つて居るやでありますが、只私の考へでは小學校の子供の食事は、どうも都合が惡いやうに思はれます、朝も、どうかすると落つかず、あわて丶掻込みますし、辨當は量が少ない、お菜も十分でない、冬は冷たい、夏は腐敗の危險がある、この點に於ては「サンドウイツチ」のやうな「パン」のお辨當が宜しいと思ひます

けれども、何れにしても十分でない、それで家に歸つて來るとお腹を空して、むやみに間食を貪ぼる、或は暴食をする傾があります。これは小學校の子供ばかりではない、中學校や女學校の生徒も同樣であります。身體の發育期で、特に食物の十分でなければならぬ時期に斯樣な有樣では發育を妨げはしまいかと案じられるのであります、これは學校衞生の方からも、家庭の方でも少し注意して何とか改良したいものと思ひます、獨逸あたりでは、學校で以てなるべく滋養に富むだ食物を出來るだけ安く生徒に食べさすやうにして居る所もあるやうであります。

それから、もう一つこゝに言ふべきことは滋養と云ふことで、西洋人の食物は日本人の食物よりも滋養に富むで居るとか、肉や乳が養生になるとか云ふことを申しますが、それは病人などの食物に就て申すことでありまして、普通健康な人は何を食べても同じく榮養になるのでありまして、寧ろ餘り選り嫌ひをして食物が片寄ると不可ませぬ、何んでも食べられるものは食べた方が宜い、特に子供には、なるべく選り嫌ひのないやうに躾けることが必要だと思ひます。それから消化、不消化と申しましても、何も軟いものばかりが消化が良いと云ふ譯のものではありませぬ、お團子や搗たての軟い餅よりも却て堅餅を燒いて能く咀嚼した方が遙に消化が良いやうなものであります、又病人や小さな小供は別ですけれども、健康な人では多少不消化な食物も亦他の食物の消化の爲に必要でありますから、何でも腹をこはさぬ限りは十分食べればそれで榮養はされるのであります。



○全國現住の人口

内閣統計局の調査によれば、大正二年十二月三十一

日現在の全國（臺灣、朝鮮、樺太、關東州の各殖民地及び陸海軍在營、在艦准士官以下、在監人を算入せず）現住人口は總計五千四百八十四萬三千八十三人にして、其中東京市以下各市の人口左の如し。

東京市	二、〇三三、三二〇	京都市	五〇八、〇六八	大阪市	一、三八七、三六六
堺市	六七、三九九	横濱市	三九六、一〇一	横須賀市	七一、二五一
神戸市	四四〇、七六六	姫路市	四七、〇三三	新潟市	六一、六七四
長岡市	三九、三五四	高田市	三一、四四九	前橋市	四八、九八三
高崎市	四二、三〇五	水戸市	四三、三八八	宇都宮市	五三、二四〇
奈良市	三八、一六九	津市	四六、七〇八	四日市市	三三、八二三
宇治山田	四〇、三一四	名古屋市	四四七、九九一	靜岡市	六一、四八八
濱松市	四〇、九六〇	甲府市	五三、六七三	大津市	四三、三六一
岐阜市	五〇、八七三	長野市	四〇、三五八	松本市	三九、〇九五
仙臺市	九七、一三一	若松市	三九、八〇四	福島市	三三、三五六
盛岡市	四二、一〇五	弘前市	三八、四四八	青森市	四七、〇七五
山形市	四五、一五〇	米澤市	三八、一〇六	秋田市	三六、二四九
福井市	五五、八七八	金澤市	一二七、六六七	富山市	六四、八二三
高岡市	三八、〇四五	鳥取市	三七、六七八	松江市	三八、一四一
岡山市	八六、一五三	廣島市	一五九、〇〇〇	尾道市	三一、一〇五
呉市	一一九、〇六〇	下關市	七〇、七五五	和歌山市	七七、〇九五
徳島市	六九、九三九	高松市	四一、八五七	丸龜市	二六、九一四
松山市	四三、三三九	高知市	三八、三六五	福岡市	九五、四三三
久留米市	三八、八八一	門司市	七一、九七七	小倉市	三五、八五四
大分市	三六、四五三	佐賀市	三六、〇九四	熊本市	六三、一二四
鹿兒島市	七五、九〇七	札幌區	九六、八九七	小樽區	九一、八〇〇
函館區	九八、八八五				

○就學兒童の標準體格

曩に文部當局者の教育調査會に提案したる學齡兒童就學期繰上問題は、今猶は未解決の儘なるが該案にして他日若し施行せらるゝことありとせば、其の場合入學を許可せらるべき兒童の身體發育程度の標準は、滿六歳に當る全國就學兒童の平均を以てする事となし、目下夫々調査中なるが、最近大正二年度調査に依る其の平均に徴せしに、檢査總數男八萬八千八百四十二人、女八萬三千五百十三人にして、身長平均男三尺五寸三分、女三尺四寸九分、體量平均男四貫六百九十三匁、女四貫五百六十匁、胸圍男一尺七寸八分、女一尺七寸三分なりと。

○結核豫防幻燈會

金澤醫師會結核豫防會の發起にて結核豫防に對する智識普及の目的を以て十月十九日より二十三日まで

五日間同市會議事堂に於て白晝自働幻燈會を催せり、その映畫の主なるものは「結核病の征伐」として恐るべき結核病の禍害、死亡數、死亡比較、内外國比較、職業別、都會と田舍とに於ける死亡率を簡明に現はし、それより映畫に入り、結核病は如何にして發生するかに就き、コッホ博士、結核菌、肺臓の圖、肺病となる徑路、不衞生、第二部は痰唾より發する傳染病罹病機會、罹病者の談話、罹病の母よりして其子供に與へる菓子類及び酒盃の交換を各色彩を以て平易に説明し、第三部は然らば結核は如何にして之れを適當に防ぐべきか、結核病の格言、體育法、相撲、水泳、「テニス」、野球、山遊、深呼吸、第四部は避くべき遊戯として歌留多會、碁、將棋、雜混寢、第五部治療方法にして治療所及び自宅療養室、治療されたる人士の寫眞、森林學校、釣魚、天幕生活、空氣療法、保健食物、最後に豫防善惡鑑として相撲の番附風に東西見易き表を示し説明を試みたるが映畫鮮明にして何人にも解し易く其裨益する處最も大なりき。

○全國聯合學校衞生協議會

大日本學校衞生協會主催の全國聯合學校衞生協議會は、去月十五日午後一時より神田一橋學士會事務所内に於て開かれたるが、先づ主催會長北里博士の開會の辭に次で田所文部普通學務局長の挨拶、文部大臣の祝辭(代讀)ありて議事に移り、同五時散會したり、當日の列席者は學校衞生に關係ある醫學者、教育家百數十名なりき、諸方面より提出されたる種々の議案中可決されたるものも否決されたるものもありたるが、左記文部省諮問案は委員附託調査の上全部可決されたり、即ち次の如し。

學校ニ於ケル「トラホーム」豫防上
適切ナル方法如何

一、眼衞生思想ノ喚起

イ、兒童ニ眼衞生ニ關スル必要ノ智識ヲ與フルコト。

ロ、保護者ニ眼衞生思想ヲ喚起セシムル方法ヲ講ズルコト。

二、豫備治療

イ、學齡ニ達スル一年前ニ於テ豫備檢査ヲ行ヒ「トラホーム」ノ治療

ナナス。

三、校舍ノ改良

イ、手洗鉢ヲ廢シ能吐口ノ裝置アルモノ、設置ヲナスコト。

ロ、換氣採光其他學校醫ニ於テ不適當ト認メタル場所ノ改築。

四、平時ノ注意

イ、兒童ニ對シ每學期一回以上眼檢查ヲ行フコト。

ロ、兒童入學ノ際眼檢查ヲ特ニ注意スルコト。

ハ、兒童ノ衣服身體殊ニ手指ノ清潔ヲ保タシムルコト。

ニ、兒童各自ニ手拭又ハ手巾等ヲ常ニ携帶セシムルコト。

五、發病者ノ處置

イ、學校ニ於テ「トラホーム」眼炎ニカヽリタル兒童ヲ發見シタルトキハ兒童ノ家庭ニ通知シ治療ノ方法ヲ講セシムルコト。

ロ、眼分泌アルトキ若クハ重症者ニシテ傳染ノ虞アル時期ハ登校ヲ禁ズルコト。

ハ、「トラホーム」ニカヽリ登校停止中ノ者登校ニ際シテハ校醫ノ診斷ヲ經テ其可否ヲ決スルコト。

六、病兒ノ治療

イ、學校ハ兒童ノ無料ニテ治療スル方法ヲ講フルコト。

ロ、無料治療ハ之ヲ強施セズ保護者ノ依頼又ハ承諾ヲ經ルコト。

七、病兒ノ取扱

イ、教室ノ坐席ヲ區別スルコト。

ロ、整列ノ際ハ別列トシ周圍ニ適當ノ間隔ヲ置クコト。

ハ、携帶品ノ置場ヲ區別スルコト。

ニ、共用道具ノ混用ヲ嚴禁スルコト。

ホ、物品ノ貸借ヲ禁ズルコト。

ヘ、浴室ノ設アル學校ニテハ手拭ハ自由ノモノトシ洗桶ハ區別スルコト。

ト、便所ヲ區別スルコト。

チ、手洗器ヲ區別シ每時間手ヲ洗ハシムルコト。

リ、運手遊戲ヲ禁ズルコト。

ヌ、強風飛塵ノトキハ可成雨天體操場若クハ教室内ニ在ラシムルコト。

ル、級長及當番等ノ諸勤務ヲ免除スルコト。

ヲ、成績物ノ取扱ヲ區別スルコト。

七、消毒

イ、校具又ハ戸障子、手摺等病毒汚染ノ虞アルモノハ每日消毒的清拭ヲ行フコト。

ハ、浴室ノ設アル學校ニ於テハ手洗及洗桶ハ其使用後直ニ熱湯ヲ以テ消毒スルコト。

○一兵を斃すに要する戰費

戰爭にて一人兵士を斃すに要する戰費幾何の計算問題は興味あることなり、ペルセン將軍は自國の戰費と敵の死亡者數より計算して平均一人の殺生費三萬餘圓と計上せり、米國の一新聞記者も近代の戰爭に於ける一人の殺生費用三萬圓内外と計算したる由なるが普佛戰爭、露土戰爭及び日露戰爭に於ける各國

の戰死者數と軍費とより割出す時は、一人を殺すに普佛戰爭にては四萬二千圓、露土戰爭にては四萬五千圓、日露戰爭にては大約四萬八百圓を費せる割合なりと云ふ。

○弱視兒童學校

獨逸國ストラスブルグ市には三年以前より弱視兒童のために市立の小學校設けられたり。本校は生徒の病眼を出來得る限り大切に取扱ふを要するを以て本校に生徒の過剩に入學するを避けつゝあり。年齡は六歲乃至十四歲の者を同時に敎育する方法にて一專門學校たるの觀あり。本校の特長と云へば敎師が敎授するに當りて成るべく生徒の眼よりも耳を働かせんとし且つ他の五官をも活動せしめんと努むるにあり。書字はこれがために特に習字帖が調製せられありて每行の線は甚だ大とし。讀み方に用ゐらるゝ文章は必ず其以前生徒に語りて其內容をば生徒をして熟知せしめ置くを常とす。圖畫は炭筆を以て白紙用紙上に畫かしめ、算術には心算を主とし、地理敎育は實地觀察に重きを置き、博物學は校外散步によりて實物敎授を行ひ又これによりて體育にも資するなり。後年生徒の生計に資する爲に編物、編網を敎授し居れども成るべく作業を器械的に行ひ眼を過勞せしめざる事に意を注ぎ居れり、本校卒業後生徒のために學校は職業紹介の勞を執りつゝあり。弱視は必ずしも低能を意味するものに非ざるを以てかゝる學校の設立は國家の人物經濟の上より云ふも又個人の幸福のためより論ずるも實に賞讚すべき美擧といふべきなり。

廣告

○婦人衞生會例會

私立大日本婦人衞生會十二月例會は去る五日午後一時より神田區一橋通りなる女子職業學校內に於て開會されたり、出席者は會員及び同校生徒聽講者約百餘名、當日の講師ドクトル三田谷啓氏は獨逸に於

ける婦人の事業と題し、主として獨逸婦人同盟の組織並に事業の概況を述べ、親しく見聞されたる獨逸婦人の長所を擧げ、本邦婦人に望む所あり、聽衆を裨益せる尠からざりき。因に當日出席の役員は左の如し。

濱尾作子　鳩山春子　守屋千代子
高木錸子　山本多穂子　田村きよ子
長谷川仲子　岡山こし子　岡田德子
宮本樂子　岸澄子　（以上出席順）

○生物界之智嚢（植物篇）

（松山亮藏著、中興館書店發行、定價金壹圓五拾錢）

「新聞紙はどうして造られるか」、「木が腐るとは、どういふことか」、「澁柿は、どういふ譯で甘くなるか」、「ナッパが漬かるとは、どういふ現象か」、「味の素は、何から造られるか」などいふような、吾々の日常生活に密接な關係を持つて居る問題は、誰でも知つて置いてよいことで、又是非知りたいと思ふ人の尠なくないにも拘らず、斯樣な事柄を、分り易く且つ簡單に書いた本の極めて少ないことは、今日のように學問が盛に開けて行く世の中としては、甚だ物足らぬ感じがする。

これは著者がこの書を著すに至つた動機で、内容は眞によくこの要求を充たして居る。その大綱目を擧げれば第一篇食料に用ひられる植物、第二篇工業に用ひられる植物、第三篇木材に用ふる植物、第四篇藥にする植物、第五篇毒になる植物、第六篇傳染病の元になる黴菌の六篇で、各篇又幾多の項目に分かれ、何れも吾等の知つてゐなければならぬ事で而かも知らぬ有益須知の事柄である、且つ極めて平易に面白く誰にでも解つて直ちに應用の出來るやうに述べられてある、吾人は科學思想の普及の爲に將た實際上の利益の爲に又趣味の爲にも、今日の一般の家庭にこの好著を推薦する。

婦人衛生雜誌（自第二九〇號 至第三〇一號）目次

婦人衛生雜誌（自第二百九十號至第三百一號）目次

講演

叢談

育兒

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子　同 羽田三緒子
同 岡田徳子　同 高木鐐子
同 山本多穂子　同 三浦敬子
同 松平芳子
評議員 石川貞子　同 岩下ゆか子
同 濱田捨子　同 長谷川仲子
同 服部繁子　同 仁禮壽賀子
同 西　舛子　同 土肥多越子
同 緒方悅子　同 岡山とし子
同 小川孝子　同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子　同 吉武輝枝子
同 丹波貞子　同 高橋孝子
同 田村きよ子　同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部殷子　同 中濱芳子
同 山口貞子　同 子爵夫人 松井正子
同 吉市孝子　同 伯爵夫人 阿部篤子
同 岸　澄子　同 菊池糸子
同 三宅藤子　同 宮本樂子
同 宮下咲子　同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵税壹錢
三册（三ケ月分） 前金郵税共 金四拾五錢
十二册（一ケ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年十二月十七日印刷
大正三年十二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中增藏
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百二號　（大正三年十二月二十日發行）　明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（每月一回廿日發行）